

⑥2 I 2026年度 世界史

問題冊子 (1～12 ページ)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで, この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明, ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は, 手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし, 解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に印刷してある受験学部・学科コード, 受験番号, 氏名(カタカナ)を確認し, 氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし, 印刷に間違いがあった場合は, 手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例 1. 〔語群〕が二桁で (11) 大阪 (12) 佐賀 (13) 長崎 (14) 東京 とある場合

問 X	A		B		C	
	16	17	18	19	20	21
	/	2	/	4	/	/

A の解答が佐賀の場合 → (17)
 B の解答が東京の場合 → (19)
 C の解答が大阪の場合 → (21)

例 2. 〔語群〕が一桁で (1) 大学 (2) 中学校 (3) 高校 (4) 小学校 とある場合

問 X	a	b	c
	51	52	53
	/	4	2

a の解答が大学の場合 → (51)
 b の解答が小学校の場合 → (52)
 c の解答が中学校の場合 → (53)

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

ティグリス川とユーフラテス川に挟まれたメソポタミアでは、紀元前 3000 年頃、(あ)人がウル、ウルク、ラガシュなどの都市国家を形成していたが、これらの都市国家は前 24 世紀頃に、サルゴン 1 世が率いる、セム語系の(い)人によって征服される。前 22 世紀頃、(い)人の国家が崩壊すると、前 19 世紀には(う)人が古バビロニア王国(バビロン第 1 王朝)を建て、前 18 世紀頃のハンムラビ王の時代には全メソポタミアを支配した。しかし、前 17 世紀半ばになると、鉄器を使用するインド＝ヨーロッパ語系の(え)人がメソポタミアに侵攻し、前 16 世紀頃に古バビロニア王国を滅ぼす。さらにイランのザグロス山脈方面から(お)人がメソポタミア南部に侵入し、また前 16 世紀にメソポタミア北部に興^{おこ}ったミタンニ王国がシリアにまで領土を広げるなど、メソポタミアでは異なる民族による侵入と支配が繰り返された。

これに対してエジプトでは、紀元前 3000 年頃に「ファラオ」と呼ばれる王が支配する統一国家が成立し、その後、前 27 世紀頃に始まる古王国時代から、中王国時代を経て、前 16 世紀頃に始まる新王国時代まで、エジプト人による統一国家がほぼ途切れることなく続いた。^(a)中王国時代の末期にシリア方面から遊牧民である(か)がエジプトに侵攻したことはあったものの、エジプトがこのような長期に及ぶ統一国家を維持できたのは、砂漠と海に囲まれたエジプトが異民族の侵入を防ぐのに適した土地だったことが大きく影響している。^(b)

しかし、長く続いたエジプトの統一国家もやがて異民族の支配を受けることになる。その始まりは、アッシリア王国の台頭であった。アッシリア王国は前 7 世紀前半に、エジプトを含む、全オリエントを征服した。そして、ティグリス川中流の東岸にある A を首都とした。だが、アッシリア王国の行った政策が被征服民の反発を招き、前 612 年に A の陥落とともにアッシリア王国は滅亡する。

アッシリア王国の後にエジプトを征服し支配したのは、アケメネス朝ペルシアであった。前 6 世紀半ばにキュロス 2 世が興^{おこ}したアケメネス朝ペルシアはリディア、新バビロニアを滅ぼし、前 525 年にエジプトを征服してその属州とした。

B 1 世の時代には、アケメネス朝ペルシアはエーゲ海北岸からインダス

川に至る領域をその統治下に置く大帝国を築いた。だが、アケメネス朝ペルシアは、前 5 世紀前半にギリシアとの戦争に敗れた。そして、マケドニア出身のアレクサンドロスによって前 330 年にアケメネス朝ペルシアは滅ぼされた。

アレクサンドロスは、遠征の過程で、前 332 年にアケメネス朝ペルシアの支配下にあったエジプトを手中に収めた。そして、エジプトにアレクサンドリアという新しい都市を建て、アレクサンドリアはプトレマイオス朝エジプトの首都として繁栄した。ちなみに、プトレマイオス朝を開いたプトレマイオスは、アレクサンドロス指揮下の将軍の一人で、若い頃にはアレクサンドロスとともにアリストテレス^(イ)のもとで共に学んだ経験がある。

しかし、紀元前 31 年、プトレマイオス朝エジプトは の海戦でローマに敗れ、その結果、エジプトはローマの属州となった。そして、ローマのコンスタンティヌス帝が紀元後 313 年に発布した 勅令によってキリスト教^(ロ)が公認されると、キリスト教はローマの属州であるエジプトにも浸透していった。さらに紀元後 395 年にローマが東西に分裂すると、エジプトは東ローマ帝国の支配下に置かれ、エジプトのキリスト教化が一層進んだ。その後、エジプトは、7 世紀半ばにウマイヤ朝^(ハ)によって征服される。そして、それ以来エジプトはイスラーム勢力の支配を長期にわたって受けることになった。エジプトが再び国家としての正式な独立を果たすには、20 世紀を待たねばならなかったのである。

問 1 文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の空欄(あ)～(か)にあてはまる最も適切な語句を、下記の語群の中から選び、その番号を別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|------------|------------|------------|
| (11) アイオリス | (12) アヴァール | (13) アッカド |
| (14) アムル | (15) アラム | (16) イオニア |
| (17) イスラエル | (18) ヴァンダル | (19) エトルリア |
| (20) カッシート | (21) シュメール | (22) スキタイ |
| (23) ドーリア | (24) ヒクソス | (25) ヒッタイト |
| (26) フェニキア | (27) ブルグンド | (28) フ ン |
| (29) マジャール | | |

問 3 文中の——線部(a)・(b)に関する以下の問に答えよ。解答は最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

- (a) この時代のエジプトの都はどこか。
- (b) この時代にアメンヘテプ4世が唯一神として信仰の対象とした神の名は何か。

問 4 文中の〰線部(イ)～(ハ)に関する以下の問に答えよ。

- (イ) この人物に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。
 - (1) イスラームの学問や中世ヨーロッパのスコラ学に強い影響を及ぼした。
 - (2) 事象の背後にあるアイデアが真の实在であると主張した。
 - (3) 万物の根源は水であると主張した。
 - (4) 人間は万物の尺度であると主張した。
 - (5) 「浮体の原理」を発見した。

- (ロ) この宗教に関連する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) イエスは、隣人愛を説いた。
 - (2) パリサイ派の人々は、イエスを総督ピラト(ピラトゥス)に告発した。
 - (3) ペテロらが使徒として伝道を行った。
 - (4) テオドシウス帝が、この宗教を迫害した。
 - (5) ニケーア公会議でアリウス派の教義が異端とされた。
- (ハ) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) カリフ位の世襲を開始した。
 - (2) ダマスクスを首都とした。
 - (3) トゥール・ポワティエ間の戦いに敗れた。
 - (4) 東ゴート王国を滅ぼした。
 - (5) 被征服地の人々から人頭税(ジズヤ)と土地税(ハラージュ)を徴収した。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

1914年にヨーロッパから始まった第一次世界大戦は、史上初の総力戦となり、国際秩序や各国の政治・社会に変容をもたらした。だが同時に、この戦争はそれまでのヨーロッパの歴史の帰結でもあった。

まず、第一次世界大戦の直接的な契機となったのは、諸民族が混在するバルカン半島各国におけるナショナリズムの高揚とその背後にある列強間の争い^(a)であった。このナショナリズムはフランス革命期の戦争とその後のナポレオン帝国^(a)によってヨーロッパへ拡散した思想・運動であった。ナポレオン帝国崩壊後の国際秩序である A 体制は正統主義と勢力均衡の考えに基づいており、各地のナショナリズム運動は抑圧されたものの、19世紀後半にはイタリアやドイツの統一がなされた^(b)。ナショナリズムが19世紀を通じてヨーロッパに浸透したことは、様々な民族の自立を求める活動が活発化したことだけでなく、大戦下の各国で党派対立や利害対立を超えた国民的団結が形成されたことにもあらわれた。

第一次世界大戦では、機関銃が大量に導入されたほか、戦車・飛行機・毒ガスなどの新兵器が登場した。この背景には19世紀後半以降、近代科学が産業に応用され、鉄鋼業や重化学工業、電機工業が飛躍的成長を遂げた第二次産業革命^(c)と呼ばれる変革が存在する。列強の覇権の基盤であった工業力は、戦争の長期化と、未曾有の数の死傷者をもたらした兵器・砲弾の大量生産を支えていた。この点で、19世紀末には世界最大の工業国となっていたアメリカ合衆国が、ウィルソン大統領のもとで参戦したことは、第一次世界大戦の戦局に大きな影響を及ぼした^(d)。

工業力に基づく欧米列強の覇権は科学や学問の発展を背景としていたが、科学の発展が、列強の覇権を支える差別的な主張につながることもあった。『種の起源』を著した B は自然淘汰による適者生存を基本とする進化論を説いて生物学に革新をもたらしたが、これを人間社会に適用した社会進化論は人種論と結びつき、白人による植民地の拡大と支配を正当化した。19世紀以前から、ヨーロッパ諸国は海外へと進出していたが、特に19世紀後半以降の植民地拡大の進展は顕著である。アフリカでは、1880年代から第一次世界大戦前夜にかけて、ヨーロッパ列強による激しい領土獲得競争や民族運動の抑圧が繰り返され^(e)

た。縦断政策を取ったイギリスと、横断政策を取ったフランスとの間で起こった1898年の C 事件では、軍事衝突寸前にまで緊張が高まった。その後、工業力の急速な成長を遂げたドイツ帝国の皇帝 D が、対外膨張政策に積極的に乗り出したことを背景に、イギリスとフランスは1904年に英仏協商を結んだ。ヨーロッパから遠く離れた海外植民地をめぐる争いでは列強間の決定的な衝突は回避された。しかし、列強中心の国際秩序は、ドイツが中心となって1882年に成立した E と、ドイツの強大化に対抗するイギリス・フランス・ロシアの協力関係である三国協商とに二極化し、破局へと向かった。

第一次世界大戦の後、新たな国際秩序が構築され始めた。連合国による対ドイツ講和条約であるヴェルサイユ条約に基づき、平和維持のための国際機構として^(え) 国際連盟が1920年に創設された。また、戦時中に勃発したロシア革命によって^(d) 史上初の社会主義政権が誕生し、内戦のなかで^(お) ロシア共産党による一党独裁が確立された。1922年末に成立したソヴィエト社会主義共和国連邦(ソ連)は、20世紀の国際秩序に多大な影響を与えた。

世界大戦は一度では終わらなかった。戦間期の国際秩序であるヴェルサイユ体制に不満を持つ人々は、世界各地に遍在した。第一次世界大戦に志願兵として参加したアドルフ・ヒトラーはその象徴であろう。ナチス＝ドイツの指導者となったヒトラーは、^(e) ヴェルサイユ体制を破壊し、ヨーロッパに新たな戦争をもたらすことになる。

問 1 文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 2 文中の〰線部(あ)～(お)に関連する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (あ) この時期に王政の廃止と共和政の樹立を宣言した議会を何というか。
- (い) この産業の革新において電気とともに新たな動力源となったものは何か。
- (う) この人物が 1918 年に発表し、1919 年のパリ講和会議にも大きな影響を与えた第一世界大戦の講和のための原則を何というか。
- (え) この条約でドイツからフランスに割譲された独仏国境地域はどこか。
- (お) この政党を中心に、革命を世界に波及させることを目的のひとつとして 1919 年に設立された、各国の共産主義政党からなる組織を何というか。

問 3 文中の――線部(a)～(e)に関連する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (a) これに関連する以下の出来事 i ～ iii が、年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。
 - i オーストリアがセルビアに宣戦布告した。
 - ii セルビア・ブルガリア・モンテネグロ・ギリシアがバルカン同盟を結成した。
 - iii オーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合した。
- (1) i → ii → iii (2) i → iii → ii (3) ii → i → iii
- (4) ii → iii → i (5) iii → i → ii (6) iii → ii → i
- (b) これに関連する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) オーストリアを盟主とする北ドイツ連邦が成立した。
 - (2) プロイセン国王がドイツ皇帝を兼ねるドイツ帝国が成立した。
 - (3) ガリバルディは両シチリア王国を占領した。
 - (4)サルデーニャ王国はイタリア統一戦争でオーストリアに勝利した。
 - (5) プロイセンとオーストリアはデンマークと戦った。

- (c) これに関連する以下の短文のうち、正しいものはどれか。
- (1) ベルギー国王がカメルーンを所有地とした。
 - (2) フランスはエチオピアを保護国化した。
 - (3) ドイツはイギリスのモロッコ支配に挑戦した。
 - (4) イタリアはオスマン帝国からリビア(トリポリ・キレナイカ)を獲得した。
 - (5) イギリスはスーダンでウラービー(オラービー)の運動を鎮圧した。
- (d) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) 総会決議は全会一致を原則とした。
 - (2) アメリカは加盟しなかった。
 - (3) 満洲国の建国を支持しなかった。
 - (4) 日本が常任理事国となった。
 - (5) ドイツとソ連は排除されつづけた。
- (e) これに関連する以下の出来事 i ~ iii が、年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。
- i オーストリアを併合した。
 - ii ポーランドに侵攻した。
 - iii ラインラントに軍を進駐させた。
- (1) i → ii → iii (2) i → iii → ii (3) ii → i → iii
 - (4) ii → iii → i (5) iii → i → ii (6) iii → ii → i

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

16 世紀以降、ヨーロッパ人は商業圏の拡大を図った。本格的な海外進出を始めていたイギリスでは 1600 年、国民的産業の毛織物製品の販路拡大やアジア物産の獲得が求められ、貿易特許会社である東インド会社が設立された。イギリス東インド会社は 18 世紀半ばにインドへの支配を広げ、いくつかの戦争を通じて、19 世紀半ばまでにインド全域を支配圏に収めた。⁽¹⁾

しかし、北インドでは 1857 年、東インド会社のインド人傭兵^(a)による反乱(インド大反乱)が起きた。これを鎮圧したイギリスは、東インド会社を解散し、インドの直接統治に乗り出した。その結果、イギリス政府直轄領と藩王国から成る(あ)が成立し、その後 1947 年の独立まで存続した。イギリスは 1819 年、東南アジアでシンガポールを領有して自由港と近代的な都市を建設し、1826 年には、ペナン、マラッカ、シンガポールから成る A を成立させている。

19 世紀後半には、帝国主義の波がアジア、アフリカ、そしてオセアニア地域に広く及んだ。インドネシア(オランダ領東インド)^(b)はオランダに、ベトナム、カンボジア^(c)、ラオスはフランスに、フィリピンはスペインに、それぞれ支配された。フィリピンはその後、グアム島などとともにアメリカ合衆国領となった。西アジアでは、オスマン帝国^(d)が 20 世紀には列強による国土分割の危機に直面した。その一方で、現在のタイに当たる(い)は、東南アジアで唯一独立を維持した。

日本もまた、列強と競うように台湾と朝鮮半島^(d)を植民地とした。遡って、中国(清)は、アヘン戦争に敗れ南京条約を締結すると、それ以降、イギリスやフランス、ロシア、アメリカ、日本などが租借地や勢力圏を獲得したため、半植民地化が進行した。この際、中国での利権獲得競争に出遅れたアメリカは、国務長官 B が中国の門戸開放などを提唱し他国を牽制した。

一方、19 世紀末から 20 世紀初めにかけてアジアの各地では、植民地支配の広がりとともに、民族運動や宗主国に対する抵抗運動が起きた。フィリピンでは、1892 年にフィリピン民族同盟を組織した(う)らが民族意識を目覚めさせる言論活動を開始し、インドネシアでは、現地のムスリム知識人により、インドネシア最初の大衆的民族組織である C が結成された。1920 年代末にイン

ドネシア国民党を結成し、のちにインドネシア共和国の初代大統領となる
[D] も、民族運動の高まりのなか登場した。ベトナム^(e)では、伝統的知識人の
(え) が、立憲君主制による独立を目指す民族運動を組織した。また、
(お) が 1925 年にはベトナム青年革命同志会を、1930 年にはベトナム共産党
(のちのインドシナ共産党)を組織し、のちに「ベトナム建国の父」と呼ばれるよう
になった。

インドでは、イギリスが 1905 年にベンガル分割令^(二)を発して、ヒンドゥー教徒
とムスリムを反目させ反英運動を弱めようとした。これに対しては分割反対運動
が起きインド全土に広がったが、その一方で、独立の方向性をめぐって民族運動
の内部で分裂が始まった。

第一次世界大戦後には、朝鮮半島で「独立万歳」を唱える(か)運動が全土に
広がった。また、インドでは [E] によって始められた非協力運動(不服従
運動)も民衆を巻き込む形で展開された。アジア各地で見られた民族運動や抵抗
の動きは、弾圧を受けるなどして挫折することも多かった。

問 1 文中の空欄(あ)～(か)にあてはまる最も適切な語句を下記の語群
の中から選び、その番号を別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|--------------------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| (11) アギナルド | (12) アムリットサル | (13) インド帝国 |
| (14) ウラービー | (15) 袁世凱 | (16) ガージャール朝 |
| (17) 金玉均 | (18) 阮 ^{げん} 朝 | (19) 五・三〇 |
| (20) 五・四 | (21) 三・一独立 | (22) シャム |
| (23) 蔣介石 | (24) ジンナー | (25) 真 ^{しん} 臘 ^{ろう} |
| (26) 瑞 ^{ずい} 金 ^{きん} | (27) 全琫準 | (28) 張作霖 |
| (29) ティラク | (30) バガン朝 | |
| (31) ファン＝ボイ＝チャウ | (32) ホセ＝リサル | |
| (33) ホー＝チ＝ミン | (34) マフディー | |

問 2 文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 3 文中の——線部(a)～(e)に関する下記の問に答えよ。解答は最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (a) この人々は何と呼ばれたか。
- (b) オランダが 1830 年代、商品作物としてコーヒー、サトウキビ、藍などをつくるため、この地域に導入した制度を何というか。
- (c) これらの地域にラオスを合わせ成立した植民地を何というか。
- (d) この半島が植民地とされた 1910 年当時の国号は何といったか。
- (e) この地域で、日本に学ぶために日本留学をすすめた運動を何というか。

問 4 文中の〰線部(i)～(ii)に関する下記の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に番号で記入せよ。

(イ) これらの戦争に関して、以下の i ～ iii が年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。

- i シク戦争
- ii プラッシーの戦い
- iii マイソール戦争

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| (1) i → ii → iii | (2) i → iii → ii | (3) ii → i → iii |
| (4) ii → iii → i | (5) iii → i → ii | (6) iii → ii → i |

(ロ) この地域に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) イギリスはニュージーランドを植民地化した。
- (2) イギリスはオーストラリア大陸を流刑植民地とした。
- (3) オーストラリアへの移民はアボリジニー(アボリジナル)を迫害し開拓を進めた。
- (4) ドイツは、ピスマルク諸島などメラネシアの一部とミクロネシアの諸島を獲得した。
- (5) アメリカがオランダからハワイを獲得した。

(ハ) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) スレイマン 1 世はウィーンを包囲した。
- (2) アフガーニーはスルタン制を廃止した。
- (3) タンジマートと呼ばれる大規模な西欧化改革を進めた。
- (4) クリミア戦争においてイギリスとフランスの支援を受けて勝利した。
- (5) 第一次世界大戦後、セーヴル条約によって領土が分割された。

(ニ) これに関連する以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i これに反対したインド国民会議は、スワデーシやスワラージなどの 4 綱領を決議した。
- ii これが撤回されるとともにカルカッタからデリーへの遷都が宣言された。
- iii これをきっかけに、ムスリムの地位と権利を擁護するための全インド＝ムスリム連盟が結成された。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| (1) i — 正 ii — 正 iii — 正 | (2) i — 正 ii — 正 iii — 誤 |
| (3) i — 正 ii — 誤 iii — 正 | (4) i — 正 ii — 誤 iii — 誤 |
| (5) i — 誤 ii — 正 iii — 正 | (6) i — 誤 ii — 正 iii — 誤 |
| (7) i — 誤 ii — 誤 iii — 正 | (8) i — 誤 ii — 誤 iii — 誤 |

⑥3 I 2026年度 世界史

問題冊子 (1～13 ページ)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例 1. 〔語群〕が二桁で (11) 大阪 (12) 佐賀 (13) 長崎 (14) 東京 とある場合

	A		B		C	
問 X	16	17	18	19	20	21
	/	2	/	4	/	/

A の解答が佐賀の場合 → (17) に 2
 B の解答が東京の場合 → (19) に 4
 C の解答が大阪の場合 → (21) に /

例 2. 〔語群〕が一桁で (1) 大学 (2) 中学校 (3) 高校 (4) 小学校 とある場合

	a	b	c
問 X	51	52	53
	/	4	2

a の解答が大学の場合 → (51) に /
 b の解答が小学校の場合 → (52) に 4
 c の解答が中学校の場合 → (53) に 2

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

現在のイタリア共和国にある都市ヴェネツィアは、約 120 の小島とその間を結ぶ運河からなり、「水の都」や「アドリア海の女王」などの別名を持つ。この都市は、かつて中世の東方貿易(レヴァント貿易)で栄えたヴェネツィア共和国の首都であった。

ヴェネツィア共和国の起源は、フン人や東ゴート人、ランゴバルド人などの侵入から逃れた人々が湿地帯へ避難して生活するようになったことである。6 世紀のビザンツ帝国^(a)の皇帝である A が成功させたイタリアの再征服以降、ヴェネツィアはビザンツ帝国に名目的には属していたが、自治を行っていた。9 世紀初頭、ヴェネツィアは^(b)フランク王国によって攻撃されるが、これを撃退した。10 世紀末にビザンツ帝国から帝国内の免税特権を得たヴェネツィアは、商業活動を拡大させていった。

地中海では、11～13 世紀の十字軍時代以降、ヴェネツィアや(ア)、ピサを代表とする北イタリアの海港都市が、ビザンツ帝国、シリア、エジプト^(c)など地中海東部との東方貿易を展開した。この貿易では、銀・毛皮・木材^{しやし}などが東方に運ばれ、香葉・絹・宝石などの奢侈品がヨーロッパにもたらされた。

13 世紀になると、モンゴル帝国の成立により東西交流が活発化した。この時期に、ヴェネツィア出身といわれる商人 B が、陸路で中国を訪れ、海路で帰国したとされる。各地で彼が見聞したとされる内容は、『世界の記述(東方見聞録)』としてまとめられた。

1198～1216 年にかけて在位したローマ教皇である(イ)の時代に教皇権が絶頂に達したといわれる。ヴェネツィアは、この教皇が提唱した第 4 回十字軍に資金を提供した。ヴェネツィアは、資金が不足していたこの十字軍にビザンツ帝国の首都 C を占領させた。イエルサレム奪回という本来の目的を逸脱したこの十字軍によって 1204 年にラテン帝国が建設されたが、ヴェネツィアもクレタ島やエーゲ海^{とうしよ}の島嶼部をはじめとして多くの領土を手に入れた。

13 世紀中頃から、ヴェネツィアは、新たにエーゲ海や黒海に進出した(ア)との抗争を繰り広げた。それでも、14 世紀前半までに、ヴェネツィアは海洋帝国と呼べる勢力圏を地中海東部に築き、15 世紀後半にはキプロス島も

手に入れた。

ヴェネツィアなどが担った東方貿易は、大航海時代の到来によって危機を迎えた。 王国の国王マヌエル 1 世が派遣したヴァスコ＝ダ＝ガマが、1498 年に喜望峰回りでインドに到達した。このインド航路の開拓に対して、ヴェネツィアは東方貿易による利益を奪われることを危惧した。ヴェネツィアは、イスラーム世界の大国であるマムルーク朝に、アラビア海からの の排除を働きかけた。^(d)マムルーク朝はインドの諸侯とともに と戦いを繰り広げたが、ディーウ沖の海戦で決定的な敗北を喫し、ヴェネツィアの思惑は外れた。

14 世紀後半以降、オスマン帝国が地中海東部で急速に勢力を拡大した。16 世紀には、この帝国のスルタンである が、神聖ローマ皇帝を事実上世襲していた(ウ)家の本拠地ウィーンを軍隊で包囲するなどして、ヴェネツィアを含むキリスト教圏の脅威となった。

ヴェネツィアは、スペインやローマ教皇などとともにカトリック連合艦隊を派遣した。連合艦隊は、1538 年に の海戦で敗北し、地中海東部の制海権はオスマン帝国の手に渡った。1571 年のレパントの海戦では、カトリック連合艦隊がオスマン艦隊に勝利をおさめた。だが、オスマン帝国は、すぐに艦隊を再建して地中海の制海権を保持し続けた。ヴェネツィアは 18 世紀までオスマン帝国に抵抗を続けるが、キプロス島やクレタ島などの地中海東部に広がる領土を、次々に奪われた。

ヴェネツィア共和国の終焉は、東のオスマン帝国ではなく西からもたらされた。1789 年にフランス革命が起こり、1792 年にフランス共和国が成立した。イギリスやオーストリアやプロイセンなどのヨーロッパ諸国は、革命の波及を恐れて、第一回^(e)を結成した。当初は劣勢に立っていたフランスだが、次第に攻勢に移った。将軍ナポレオン＝ボナパルトに率いられてイタリアに遠征したフランス軍は、オーストリア軍に勝利をおさめた。フランスとオーストリアの休戦条約である 1797 年のカンポ＝フォルミオ条約によって、ヴェネツィア共和国は、かつて地中海東部の覇権を争った(ア)共和国とともに消滅した。

問 1 文中の空欄 A ～ G にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は、正しい漢字で書け。

問 2 文中の空欄(ア)～(ウ)にあてはまる最も適切な語句を、下記の語群の中から選び、その番号を別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | |
|--------------------|----------------|
| (11) インノケンティウス 3 世 | (12) ウルバヌス 2 世 |
| (13) グレゴリウス 7 世 | (14) ザクセン |
| (15) ジェノヴァ | (16) テューダー |
| (17) ハプスブルク | (18) フィレンツェ |
| (19) ブルボン | (20) ミラノ |
| (21) ラヴェンナ | (22) レオ 3 世 |

問 3 文中の下線部(a)～(e)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

(a) この帝国に関する出来事 i ～ iii が、年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。

- i 聖像禁止令が発布された。
- ii 『ローマ法大全』が編纂された。
- iii プロノイア制がおこなわれた。

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| (1) i → ii → iii | (2) i → iii → ii | (3) ii → i → iii |
| (4) ii → iii → i | (5) iii → i → ii | (6) iii → ii → i |

(b) この王国に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) カールがローマ教皇によってローマ皇帝に戴冠された。
- (2) クローヴィスがアタナシウス派に改宗した。
- (3) トゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を撃退した。
- (4) ピピン(3世)がカロリング朝を開いた。
- (5) メルセン条約によって統一された。

- (c) この地域に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) アレクサンドリアにムセイオン(王立研究所)がつくられた。
 - (2) 「エジプトはナイルのたまもの」と評された。
 - (3) 楔形文字が用いられた。
 - (4) クシュ王国に一時的に支配された。
 - (5) クフ王のピラミッドが築かれた。
- (d) この王朝に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) イスラム教の聖都であるメッカとメディナの保護権を持っていた。
 - (2) オスマン帝国に滅ぼされた。
 - (3) カイロに首都がおかれた。
 - (4) 軍人奴隷出身者たちが支配した王朝である。
 - (5) この王朝のサラフ＝アッディーン(サラディン)が十字軍からイエルサレムを奪回した。
- (e) この国に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) オーストリア継承戦争と七年戦争で敗北した。
 - (2) 国王フリードリヒ 2 世は啓蒙専制君主の典型とされる。
 - (3) この国を盟主とする北ドイツ連邦が成立した。
 - (4) ユンカーと呼ばれる領主貴族が将校や官僚となった。
 - (5) ロシアとオーストリアとともにポーランドを分割した。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

20 世紀ヨーロッパ政治の中で記憶に残る人物といえば、イギリスのチャーチルとフランスのド＝ゴールが挙げられる。ともに軍人出身の政治家である 2 人の生涯をたどることで、ヨーロッパ近現代史を跡付けることができるだろう。

チャーチルは、保守党政治家ランドルフ＝チャーチルの長男として 1874 年 11 月 30 日に生まれた。陸軍士官学校を経て陸軍に入り、キューバやインドに赴任した。^(あ)1899 年に陸軍を辞めて、保守党から補欠選挙に立候補したが落選し、報道記者として南アフリカ戦争(ブル戦争)^(い)取材した。帰還後、1900 年の選挙で下院議員に当選し、途中で自由党に移って、1911 年に海相となった。第一次世界大戦では、敵のオスマン帝国を攻撃するガリポリの戦い^(う)に失敗し、海相を辞任した。一時的に陸軍に戻って出征し、政界復帰後の選挙では落選した。

1924 年の選挙でチャーチルは保守党に戻り、下院議員に選ばれた。同年に蔵相に就任し、翌年には金本位制^(え)への復帰を断行したが、これはイギリス経済にとって負担となり反発の声も受けた。1930 年代に入り、インド民族主義への譲歩を盛り込んだインド統治法に反対したチャーチルは、保守党内で孤立した。また、彼は早くからナチス＝ドイツを警戒して、ネヴィル＝チェンバレン首相がフランスのダラディエ、ドイツのヒトラー、イタリアのムッソリーニと 1938 年にドイツ南部の都市 A で会談し、ヒトラーの要求に応じて宥和政策を採ったことを批判したものの、党内では支持されなかった。しかし、宥和政策が失敗して第二次世界大戦が勃発すると影響力を回復し、1940 年に首相の座に就いた。

大戦中、チャーチルはフランスの降伏後もドイツに抗戦し、アメリカ合衆国大統領の B やソヴィエト連邦のスターリンとテヘランやヤルタで会談を持つなど連携をとり、連合国側の勝利に貢献した。他方で、社会改革を求める声には冷淡であったため、1945 年の選挙で保守党は敗れ、労働党の C が首相に就任した。1951 年の選挙後チャーチルは再び首相となったが、高齢のため 1955 年に辞任した。文才にも恵まれた彼は、『第二次大戦回顧録』などを著し、1953 年にノーベル文学賞を受賞した。同じ年のノーベル平和賞は、1947 年にマーシャル＝プランを提唱したジョージ＝マーシャルに授与されている。下院議員^(お)を引き続き 1964 年まで務めたチャーチルは、翌年の 1 月 24 日に死去した。

ド＝ゴールは、1890年11月22日、由緒ある家柄に生まれた。陸軍士官学校を経て陸軍に入り、第一次世界大戦では捕虜としてドイツに抑留された。大戦後、新たに建てられたポーランド共和国が1920年にソヴィエト＝ロシアに侵攻して戦争が始まると、彼も派遣されて戦闘に従事した。

ド＝ゴールは1930年代に近代戦略を説いたが、第二次世界大戦の勃発後ドイツ軍がフランスに侵攻すると、それを実践して局地的ながらも反撃に成功し、1940年6月に陸軍次官に^{ばってき}抜擢される。しかし、全体の戦況はフランスが劣勢で、6月14日にパリはドイツに占領された。降伏受け入れに傾くフランス政府内で抗戦継続を主張するド＝ゴールは、逮捕される危険を察してロンドンに亡命する。彼は、6月18日、イギリス放送協会(BBC)の放送を通じて、ドイツに抵抗する^(き)レジスタンスをフランス国内に呼びかけ、また、^(く)ロンドンに亡命政府を建てたが、フランス国内ではドイツに協力的な政府が D を首班として成立した。

1943年から戦局が転換し、連合国側が優勢になる。1944年8月にパリが解放されると、ド＝ゴールは9月にパリに帰還しフランス共和国臨時政府首班となる。しかし、議会優位の新憲法が制定されると、大統領優位の体制を望む彼は1946年に首班を辞任した。以後、ド＝ゴールは在野で自らの政治理念の実現をめざしたが支持が低迷するようになり、1955年に政界引退を宣言した。

この頃、北アフリカのフランス植民地である E では、独立運動が展開していた。1958年5月の独立反対派の反乱に始まる混乱の中、事態收拾をめざすコティ大統領は6月、すでに引退を宣言していたド＝ゴールを首相に任命する。ド＝ゴールが希求してきた、強い大統領権限を定めた新たな憲法が9月の国民投票を経て10月に公布され、12月には彼自身が大統領に選出された。ド＝ゴールは次いで E の独立も国民投票を経て1962年に承認し、^(け)フランスの植民地維持政策の放棄に向かった。そこには、民族解放運動支持によって第三世界からの信頼を得ることで「フランスの偉大さ」を追求する狙いがあった。その後ド＝ゴールが推進したフランス独自の外交路線も、その流れの中にある。^(こ)しかし、彼の政策は国民に負担をかけることになり、1968年、五月革命と呼ばれる抵抗運動を引き起こした。ド＝ゴールは、この危機を乗り切ったものの、1969年の元老院・地方行政制度改革案をめぐる国民投票に敗れて大統領を辞任し、翌年の11月9日に死去した。

問 1 文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な人名または地名を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の下線部(あ)～(こ)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

(あ) この地は、16 世紀以来ヨーロッパのある国の植民地であったが、20 世紀初頭に独立したものの事実上は他の国の保護国となった。この地を植民地とした国と、保護国とした国の組み合わせとして、正しいものはどれか。

- | | |
|-------------------|------------------|
| (1) オランダ—アメリカ合衆国 | (2) オランダ—イギリス |
| (3) オランダ—フランス | (4) スペイン—アメリカ合衆国 |
| (5) スペイン—イギリス | (6) スペイン—フランス |
| (7) ポルトガル—アメリカ合衆国 | (8) ポルトガル—イギリス |
| (9) ポルトガル—フランス | |

(い) 1902 年に終結したこの戦争に敗れ、新たにイギリスの支配下に入ったのはどこか。

- | | | |
|----------|-----------------|------------|
| (1) エジプト | (2) カメルーン | (3) ケープ植民地 |
| (4) スーダン | (5) トランスヴァール共和国 | |

(う) この戦いでイギリス軍撃退に戦功をあげたオスマン帝国の軍人ムスタファ＝ケマルは、後にケマル＝アタテュルクと呼ばれるようになる。この人物の事績に関する以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i ロシアを破ってイズミルを回復した。
- ii アンカラでトルコ大国民議회를樹立した。
- iii 連合国との間でセーヴル条約を締結した。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) i—正 ii—正 iii—正 | (2) i—正 ii—正 iii—誤 |
| (3) i—正 ii—誤 iii—正 | (4) i—正 ii—誤 iii—誤 |
| (5) i—誤 ii—正 iii—正 | (6) i—誤 ii—正 iii—誤 |
| (7) i—誤 ii—誤 iii—正 | (8) i—誤 ii—誤 iii—誤 |

(え) イギリスはこの制度から後に離脱するが、以下の短文のうち、このことについて正しく説明しているものはどれか。

- (1) 世界恐慌の影響により離脱した。
- (2) 第一次石油危機の影響により離脱した。
- (3) マーストリヒト条約締結を契機に離脱した。
- (4) 国際通貨基金(IMF)の設立を契機に離脱した。
- (5) ユーロッパ経済共同体(EEC)の設立を契機に離脱した。

(お) これに関する以下の短文のうち、正しく説明しているものはどれか。

- (1) 国際連合憲章の原案を取りまとめたものである。
- (2) 国際復興開発銀行(世界銀行)の設立計画である。
- (3) 東西両ドイツ間の関係正常化を進める計画である。
- (4) ユーロッパ諸国による石炭と鉄鋼の共同管理計画である。
- (5) アメリカ合衆国によるヨーロッパ経済復興援助計画である。

(か) この国の建国の指導者であり、1926年に軍事クーデタによって独裁政権を樹立した人物は誰か。

- (1) コシチューシコ(コシチューシコ) (2) コシュート
- (3) チャウシェスク (4) ピウスツキ
- (5) ホルティ

(き) ドイツに対するこれと同様の抵抗活動は、フランス以外の国でも見られた。そのひとつであるパルチザン運動をユーゴスラヴィアで指導し、大戦後に同国で政権を握った人物は誰か。

- (1) ゴムウカ(ゴムルカ) (2) ティトー
- (3) ドプチェク (4) ナジ=イムレ
- (5) ワレサ

(く) この政府は、何と呼ばれているか。

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) ヴィシー政府 | (2) 自由フランス政府 |
| (3) 人民戦線内閣 | (4) 第四共和政政府 |
| (5) パリ＝コミューン | |

(け) 以下のうち、フランスの植民地であったのはどこか。

- | | | |
|------------|----------|-----------|
| (1) エチオピア | (2) ガーナ | (3) チュニジア |
| (4) モザンビーク | (5) リベリア | |

(こ) これに関する以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

i 中華民国を承認した。

ii 北大西洋条約機構(NATO)への軍事協力を拒否した。

iii ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)の設立を推進した。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) i—正 ii—正 iii—正 | (2) i—正 ii—正 iii—誤 |
| (3) i—正 ii—誤 iii—正 | (4) i—正 ii—誤 iii—誤 |
| (5) i—誤 ii—正 iii—正 | (6) i—誤 ii—正 iii—誤 |
| (7) i—誤 ii—誤 iii—正 | (8) i—誤 ii—誤 iii—誤 |

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

2013 年、中国の習近平国家主席は「一带一路」構想を提唱した。これは、東西交易で栄えた陸と海のシルクロードに沿って中国主導で経済圏を構築し、経済発展を目指す戦略である。それでは、昔のシルクロード周辺にはどのような都市や国家が存在していたのだろうか。

陸のシルクロードは、中央ユーラシアを東西に走る交易ルートであった。陸のシルクロード周辺にはモンゴル高原、南ロシア草原などが存在しており、紀元前 9 ～ 紀元前 8 世紀以降、騎馬遊牧民が割拠し、交易の利益を得ながら遊牧国家を形成していった。砂漠の周辺には ^(a) A 都市が点在し、隊商交易や農業、手工業の拠点となった。これらの都市を中継する交易ルートが、「A の道」と呼ばれる。

ユーラシア東部では、時として遊牧民と漢人が抗争を繰り返し、数々の勢力が興亡を繰り返した。混乱の時代が終わり、7 世紀前半に登場したのは唐であった。唐は B ^(r) (隋の大興城) を都に定め、国内の統治制度を整備した。唐 ^(b) は、支配下におさめた異民族の統治を現地の首長に任せ、その上に都護府などを置いて彼らを監督する政策を採用した。また、唐の支配地域が広域に及んだ時期の B は東西交流の結節点として繁栄し、商業、文化ともに発展した。中国の北部では 10 世紀はじめにキタイ(契丹) ^(c) が強力な国家をうちたてた。唐の滅亡後、中国では北宋が統一を達成した。北宋は文治主義に基づき国を治めたが、^(u) 軍事的には弱く、周辺民族の侵入に苦しめられ、のちに淮河以北を失った。

他方、海のシルクロード(海の道)は東アジアから ^(d) 東南アジア、インド洋、アラビア海へと展開した交易ルートで、1 ～ 2 世紀には地中海までつながった。海のシルクロード(海の道)では、紀元前 2 世紀末に前漢 ^(v) がベトナムにおいた日南郡が、南海交易の窓口となった。また、東西交易が拡大すると、複数の交易拠点が出現した。例えば、1 世紀末のメコン川下流域では C ^(e) が建てられた。この国の港の遺跡からは、ローマの貨幣など東西交易を物語る物品が出土している。2 世紀末のベトナム中部沿岸では、チャム人の手で D が建てられた。

この交易ルートを往来した木造船は、主に 2 種類あった。1 つは、7 ～ 8 世紀頃には南シナ海域へ来航していたムスリム商人の船で、E と呼ばれる。

もう1つは、主に中国商人が活用した、外洋航海にも耐えうる F であった。その結果、中国商人の活動範囲が拡大し、南宋時代までには、南インドまで進出した。

海のシルクロード(海の道)は、^(f)モンゴル帝国が支配地域を拡大する過程で、大都を結節点として陸のシルクロードとリンクした。モンゴル帝国のもとでは、ムスリム商人を介して交易活動が盛んになり、ヒトやモノの移動も活発化した。その後、モンゴル帝国の分裂・衰退が進むと、中国では明が建てられた。明の永楽帝は積極的な対外政策を推進し、^(g)インド洋からアフリカ沿岸まで、数度にわたり^(h)大艦隊の派遣を行った。交易活動に関しては、明が G 政策を採用して中国商人による海上交易や渡航を制限し、交易を統制した。こうした統制のもとで、例えば琉球王国のように皇帝へ物産を貢納する国は、それに対する返礼を授与された。^(ニ)しかし、16世紀半ばになると、⁽ⁱ⁾中国周辺で明の制限的な貿易政策を打破しようとする動きが活発になり、その結果、中国東南の沿海部の秩序が不安定になった。そのため、明は海上交易の制限を緩和するにいった。

このように、陸と海のシルクロードの周辺ではさまざまな国や民族が盛衰し、特色のある制度や政策を展開したのであった。

問 1 文中の空欄 A ～ G にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 2 文中の〰線部(イ)～(ニ)に関する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (イ) この時代に広州で初めて設置された、海上交易を管理する機関を何というか。
- (ロ) この王朝が導入した、皇帝が試験官となって行う科挙の最終試験を何というか。
- (ハ) この王朝が行った、物資流通と物価調整、国庫の増収をはかる政策を何というか。
- (ニ) このような貿易の形態を何というか。

問 3 文中の——線部(a)~(i)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に書き入れよ。

(a) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 大月氏から自立したクシャーナ人が、1世紀にクシャーナ朝をたてた。
- (2) 匈奴^{きょうど}は月氏を攻撃して、中央ユーラシアの一部を支配下におさめた。
- (3) 漢の高祖に攻撃された匈奴は、勢力をモンゴル高原に移した。
- (4) しばしば遊牧民につかえたソグド人は、交易活動や外交の場面で活躍した。
- (5) スキタイは、独特の動物文様の武具や馬具を使う騎馬遊牧民であった。

(b) この方式を何というか。

- (1) 衛所制 (2) 羈縻^{きび}政策 (3) 九品中正
- (4) 郷举里選 (5) 骨品制

(c) これに関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 建国したのは、完顔阿骨打^{ワンヤンアグダ}である。
- (2) 支配地域の遊牧民や農耕民に中国風の統治制度を採用した。
- (3) 元と和議を結び、銀や絹を受領した。
- (4) 西夏を征服した。
- (5) 渤海を征服した。

(d) この地域の王朝に関する短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) スマトラ島にシュリーヴィジャヤが成立した。
- (2) エーヤワディー(イラワディ)川中流域にバガン朝が成立した。
- (3) チャオプラヤ川流域にマラッカ王国が成立した。
- (4) ジャワにマタラム王国が成立した。
- (5) タイにスコータイ王朝が成立した。

(e) この川の中流域で6世紀におこり、のちにアンコール=ワットを建設したのはどの国か。

- (1) アチェ (2) カンボジア (3) 大越
- (4) 陳朝 (5) ピュー

(f) この帝国の統治下で起こった出来事に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 交通・通信システムとして、ジャムチと呼ばれる駅伝制が導入された。
- (2) カスティリオーネ(郎世寧)が授時暦をつくった。
- (3) イスラーム諸国から伝来した写本絵画(細密画)の技法が普及した。
- (4) クビライは、福州を都とした。
- (5) 交易の決済手段として、法幣が使用された。

(g) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 土地台帳として、魚鱗図冊を整備した。
- (2) 『皇輿全覧図』が作製された。
- (3) 農村で里甲制を採用し、徴税と治安維持を担わせた。
- (4) 朱子学を官学とした。
- (5) 賦役黄冊をもとに、税役を課した。

(h) これに関して、永楽帝の命により遠征に派遣された宦官は誰か。

- (1) 欧陽脩おうようしゅう (2) 顧炎武 (3) 呉三桂
- (4) 鄭玄 (5) 鄭和

(i) これに関連して、16世紀から17世紀にかけて中国とその周辺で起きた出来事 i ~ iii が年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。

- i 豊臣秀吉が、朝鮮に遠征軍を送った。
- ii ポルトガルが、マカオの居住権を獲得した。
- iii 鄭成功が、台湾からオランダ人を追放した。

- (1) i → ii → iii (2) i → iii → ii (3) ii → i → iii
- (4) ii → iii → i (5) iii → i → ii (6) iii → ii → i

⑥4 I 2026年度 世界史

問題冊子 (1～13 ページ)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例 1. 〔語群〕が二桁で (11) 大阪 (12) 佐賀 (13) 長崎 (14) 東京 とある場合

問 X	A		B		C	
	16	17	18	19	20	21
	/	2	/	4	/	/

A の解答が佐賀の場合 → (17) に 2
 B の解答が東京の場合 → (19) に 4
 C の解答が大阪の場合 → (21) に /

例 2. 〔語群〕が一桁で (1) 大学 (2) 中学校 (3) 高校 (4) 小学校 とある場合

問 X	a	b	c
	51	52	53
	/	4	2

a の解答が大学の場合 → (51) に /
 b の解答が小学校の場合 → (52) に 4
 c の解答が中学校の場合 → (53) に 2

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

中世ヨーロッパ特有の戦士階層であった「騎士」は、どのような存在だったのだろうか。騎士の起源の一つとして、ゲルマン人社会にみられた従土制^(a)が挙げられる。ゲルマン人の古来の戦い方は、歩兵が円形の盾を片手にもち、もう片方の手でおの斧ややり槍、あるいは剣を振るって戦うというものだった。彼らは、ローマ帝国で傭兵として活躍した。4世紀前半、キリスト教を公認したことで知られる（イ）帝は軍事改革を進め、ゲルマン人を兵士として受け入れて強力な野戦機動部隊を創設した。476年に西の皇帝に退位を迫り、実質的に「西ローマ帝国の滅亡」を引き起こした傭兵隊長 A もゲルマン人であったことは有名である。

戦争の主力が歩兵だったのは、まだヨーロッパには騎馬のためのあぶみ鐙が伝来していなかったからである。鐙は、くら鞍の左右に垂らして足を載せるだけの簡単な馬具ではあるが、これにより騎手は馬上で安定した姿勢を保ち、槍や剣、弓矢などを操ることができるようになる。こうした優れた乗馬と騎馬戦闘の技術は、スキタイ^(a)にはじまり、イラン高原北東部に建国して前2世紀半ばにはメソポタミアにまで勢力を拡大したパルティア王国^(a)で完成したといわれる。馬に乗って最前線に進出し、馬上から後ろ向きに矢を放って後退する一撃離脱の戦法は、パルティアン・ショットという名称で現在も知られている。

8世紀に鐙と優れた騎馬技術がヨーロッパに伝来したことで、フランク王国では、歩兵中心の古代的な軍隊から騎兵中心の軍隊へと大転換が起こる。西ゴート王国を滅ぼしたウマイヤ朝の進出をメロヴィング朝の宮宰（ロ）が732年に撃退した B の戦いでは、騎馬兵もいたものの、フランク軍の主体は歩兵であったといわれる。騎馬兵が軍隊の中心的な役割を果たすようになるのは、カール大帝が有力な従土に騎乗での従軍を義務付けて以降のことであった。

10世紀以降、ヨーロッパでは祈る人（聖職者）・戦う人（戦士）・耕す人（農民）という3つの職能への分化が進む。戦士たちは、主君から土地や役職を封（レーン）⁽ⁱ⁾として得るかわりに、主君に対して忠誠を誓い、軍役奉仕の義務を負う封建的主従関係を結んだ。所領を得て小領主となった戦士たちは、戦場では騎馬で戦い、こうして貴族の下層を構成する「騎士」身分が成立する。彼らは、戦場での武

勇や主君への忠義といった徳目を身に付けると同時に、宮廷を舞台とする独自の文化を作り上げた。ゲルマンの英雄伝説をもとにした叙事詩『ニーベルンゲンの歌』やカール大帝と騎士たちを描いた武勲詩『C』などの騎士道文学が愛好された。また彼らは、「キリストの戦士」として、^(b)十字軍にも参加した。

14世紀以降、騎士の役割は大きく後退していく。フランスのカペー朝が絶えて傍系のヴァロワ朝があとを継ぐと、イングランド王(ハ)はフランス王位の継承権を主張してフランスに侵攻し、後に百年戦争と呼ばれる断続的な戦争がはじまった。1346年のクレシーの戦いでは、大量速射が可能な長弓兵主体のイングランド軍が、装備に手間のかかる^{いしゆみ}弩兵を最前列におくフランス軍を混乱に陥れた。フランスの騎兵部隊は何度も突撃を試みたが、地形や雨後の地面のぬかるみなど様々な事情が重なり敵軍の陣形を崩すにはいたらなかった。イングランド軍は戦死者数百名だったのに対し、フランス軍は約1万人以上の戦死者を出したといわれる。この戦いに参加して騎兵を率いたフランス貴族の幾人かが命を落とし、⁽⁵⁾ボヘミア王を兼ねるルクセンブルク伯のヨハンもこのときの戦いで戦死した。

長きにわたる戦争は、神の啓示を受けたと信じる農民の娘ジャンヌ＝ダルクがあらわれ、オルレアンを解放したのを機に、フランス王(二)が反攻に転じる。彼は、1439年に王令を發布し、個々の貴族の武装権とそれを支える徴税権を制限し、国王のもとに軍隊編成を独占・統一することを宣言した。これ以降、兵士は国王から給料を受けて常勤体制で勤務するようになり、こうしてヨーロッパ史上初と評価されることもある国王常備軍が誕生した。

時代はルネサンスであり、羅針盤、活版印刷術などの技術の改良が進み、戦争においても、火器の改良・実用化が進んだ。マスケット銃や大砲を大量に使用する新たな戦争の方式が広がり、従来の軍事組織や制度を一変させ、騎士の没落をもたらした。17世紀の三十年戦争では、傭兵軍が軍隊の中心を占め、^(c)略奪が横行し、戦場となったドイツは荒廃した。

問 1 文中の空欄(イ)～(ニ)にあてはまる最も適切な人名を、下記の語群の中から選び、番号で別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| (11) ウィリアム 1 世 | (12) エドワード 3 世 | (13) オットー 1 世 |
| (14) カール＝マルテル | (15) クローヴィス | |
| (16) コンスタンティヌス | | (17) シャルル 7 世 |
| (18) ディオクレティアヌス | | (19) テオドシウス |
| (20) トラヤヌス | (21) ピピン | (22) フィリップ 2 世 |
| (23) フィリップ 4 世 | (24) フランソワ 1 世 | (25) ヘンリ 2 世 |
| (26) ヘンリ 3 世 | (27) ヘンリ 7 世 | (28) ユーグ＝カペー |
| (29) ユスティニアヌス | (30) ルイ 9 世 | |

問 2 文中の空欄 A ～ C にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 3 文中の——線部(あ)～(う)に関する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は、正しい漢字で書け。

- (あ) この王国を 224 年に倒し、ササン朝ペルシアを興したのは誰か。
- (い) こうした関係の起源として、ゲルマンの従土制と並んで挙げられる、主君が臣下に勤務の代償として土地を与えるローマ帝政末期以来の制度は何か。
- (う) この人物の息子で、神聖ローマ帝国の皇帝として金印勅書を出したのは誰か。

問 4 文中の〰線部(a)～(c)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (a) これについて説明した以下の短文のうち、正しいものはどれか。
 - (1) 黒海北岸の草原地帯を支配し、アケメネス朝ペルシアの遠征軍を退けるなど、強勢を誇った。
 - (2) 前 3 世紀末にモンゴル高原を統一し、漢を破って貢納を課した。
 - (3) サマルカンドなどのオアシス都市を中心に、東西交易の中継商人として活躍した。
 - (4) 中央アジアの遊牧民で、ササン朝のホスロー 1 世に滅ぼされた。
 - (5) アジア系の遊牧民で、ドン川を越えて西進し、ゲルマン人の大移動を促した。

- (b) これについて述べた以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) 教皇ウルバヌス 2 世がクレルモン宗教会議で派遣を提唱した。
 - (2) 第 1 回の遠征軍は聖地奪還の目的を果たし、イエルサレム王国を建てた。
 - (3) これを主導した教皇の権威は、インノケンティウス 3 世の時に絶頂に達した。
 - (4) 聖地の守備と巡礼者の保護のために、ドイツ騎士団などの修道(宗教)騎士団が結成された。
 - (5) 第 4 回の遠征は、ジェノヴァ商人の要求に従い、コンスタンティノープルを占領した。

- (c) これについて述べた以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) ベーメン(ボヘミア)のプロテスタントがハプスブルク家の旧教化政策に反旗をひるがえしたことが戦争のきっかけであった。
 - (2) スウェーデン王グスタフ＝アドルフはプロテスタント支援を名目にドイツに侵入した。
 - (3) 傭兵隊長ヴァレンシュタインが皇帝軍を率いて戦った。
 - (4) カトリックのフランスが皇帝側にたって参戦した。
 - (5) ウェストファリア条約が締結されて戦争は終結した。

問 5 文中の——線部(a)について、その内容を 40 字以内で説明せよ。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

19世紀のロシアは、1801年のアレクサンドル1世の即位に始まる。彼はエカ
チェリーナ2世の孫であった。ロシアは1805年にアウステルリッツの戦いでフ
ランスに敗北を喫した。ヨーロッパの主要国を征服したフランスは、残るイギリ
ス^(a)に対して経済制裁を加えるため、1806年にロシアを含むヨーロッパ諸国にイ
ギリスとの通商を禁じる勅令を發布した。しかし、経済的に困窮していたロシア
がこれに違反してイギリスとの貿易を再開させたため、フランスは1812年にロ
シアに侵攻した。だが、ロシア軍の焦土作戦などによってナポレオン軍は撤退に
追い込まれ、フランスのロシア遠征は失敗に終わった。これをきっかけとして、
各国は反フランスに転じ、ナポレオンは失脚することとなった。

1814年から1815年にかけて、ナポレオン戦争後の国際秩序を協議するウィー
ン会議^(b)が開催された。そこで調印された議定書において、ロシア皇帝はポーランド
国王を兼任することとなった。また、アレクサンドル1世の提唱により、ヨー
ロッパの多くの君主が参加して、キリスト教精神に基づく 同盟が結成
された。ウィーン体制においては、大国間の協調と勢力均衡による国際秩序の維
持が目指された。さらにロシアは、オーストリア・プロイセン・イギリスと共に
四国同盟を結んで、ウィーン体制の強化をはかった。しかし、その後、ヨーロッ
パ各地で、自由主義やナショナリズムを背景に、保守的なウィーン体制に不満を
持った人々が、改革運動をおこした。^(c)

1825年にニコライ1世が即位すると、ロシアは南下政策を進めた。イランの
ガージャール朝と戦い、これに勝利すると、1828年に 条約が締結さ
れた。これによって、ロシアは南コーカサスの領土を獲得し、イランに治外法権
や関税自主権の喪失を認めさせた。またロシアは、エジプト＝トルコ戦争⁽ⁱ⁾でオス
マン帝国を援助して、ボスフォラス海峡とダーダネルス海峡の航海権の獲得を目
指した。しかし、戦後処理のために開催された1840年の 会議と翌年
の海峡協定で、イギリスなどの干渉を受けて、これは最終的に阻止された。
1853年には、ギリシア正教徒保護を口実にクリミア戦争^(d)を起こしてオスマン帝
国と戦ったが、敗戦に終わった。

1855年に即位したアレクサンドル2世は、クリミア戦争後、国内の改革を進

めた。1861 年に農奴解放令を發布して、農奴に人格的自由を認めた。これは D と呼ばれる農村共同体を単位として、農民を直接統治しようとする政策でもあった。一方で、ロシアの知識層の一部は、農民を啓蒙することによって⁽⁵⁾ 社会改革を目指した。

クリミア戦争の敗北後、ロシアは東方へも領土拡大を進めていった。^(e) 他方、1870 年代になってオスマン帝国支配下のスラヴ諸民族の独立運動が活発となると、ロシアはこれを支持して、1877 年にロシア＝トルコ戦争を起こした。^(f) 翌年に勝利し、サン＝ステファノ講和条約が締結された。しかし、ロシアの南下に反対したイギリスとオーストリアがこれに反発し、ドイツのビスマルクが開いた^(g) 1878 年のベルリン会議で、この条約は破棄された。^(h)

問 1 文中の空欄 A ～ D にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に記入せよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 2 文中の——線部(あ)～(う)に関する以下の問いに答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (あ) この勅令は何と呼ばれるか。
- (い) この戦争でエジプト軍を率いたエジプト総督は誰か。
- (う) 彼らは、彼らの掲げた標語「人民のなかへ」にちなんで何と呼ばれたか。

問 3 文中の〰線部(a)～(h)に関する以下の問いに答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (a) この人物とその治世に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) オスマン帝国からクリミア半島を奪った。
 - (2) ペテルブルク(サンクト＝ペテルブルク)に遷都した。
 - (3) 日本にラクスマンを派遣した。
 - (4) プガチョフの農民反乱が起きた。
 - (5) ポーランド分割に参加した。

- (b) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) スイスが永世中立国として承認された。
 - (2) タレーランが正統主義を唱えた。
 - (3) ドイツ関税同盟が認められた。
 - (4) ブルボン朝の復帰が認められた。
 - (5) メッテルニヒが議長を務めた。
- (c) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) イタリアでカルボナリが反乱を起こした。
 - (2) スペインで立憲革命が起こった。
 - (3) ドイツでブルシェンシャフト運動が起こった。
 - (4) フランスで二月革命の結果、ルイ＝フィリップが国王となった。
 - (5) ロシアでデカブリストの乱が起こった。
- (d) この戦争における激戦地で、ロシアの黒海艦隊が拠点としたクリミア半島の要塞はどこか。
- (1) イスタンブル
 - (2) オデッサ
 - (3) キエフ(キーウ)
 - (4) セヴァストープル
 - (5) ヤルタ
- (e) これに関する以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。
- i アイグン条約で黒竜江以北を獲得した。
 - ii 北京条約で沿海州を獲得した。
 - iii 3つのハン国を制圧して、ロシア領トルキスタンを形成した。
- (1) i—正 ii—正 iii—正
 - (2) i—正 ii—正 iii—誤
 - (3) i—正 ii—誤 iii—正
 - (4) i—正 ii—誤 iii—誤
 - (5) i—誤 ii—正 iii—正
 - (6) i—誤 ii—正 iii—誤
 - (7) i—誤 ii—誤 iii—正
 - (8) i—誤 ii—誤 iii—誤

(f) この戦争を理由として、オスマン帝国の議会を解散し、憲法を停止して、専制政治を行ったスルタンは誰か。

- | | |
|------------------|------------------|
| (1) アフガーニー | (2) アブデュルハミト 2 世 |
| (3) アブデュルメジト 1 世 | (4) ウラービー |
| (5) ミドハト = パシャ | |

(g) この人物に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 北ドイツ連邦を成立させた。
- (2) 鉄血政策を進めた。
- (3) デンマークに勝利した。
- (4) プロイセン = オーストリア戦争に勝利した。
- (5) 文化闘争でプロテスタントを弾圧した。

(h) これに関する以下の短文 i ~ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i セルビアの独立が承認された。
- ii ボスニア・ヘルツェゴヴィナの独立が承認された。
- iii ルーマニアの独立が承認された。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) i — 正 ii — 正 iii — 正 | (2) i — 正 ii — 正 iii — 誤 |
| (3) i — 正 ii — 誤 iii — 正 | (4) i — 正 ii — 誤 iii — 誤 |
| (5) i — 誤 ii — 正 iii — 正 | (6) i — 誤 ii — 正 iii — 誤 |
| (7) i — 誤 ii — 誤 iii — 正 | (8) i — 誤 ii — 誤 iii — 誤 |

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

19 世紀から 20 世紀の間に、世界では多くの戦争が起こった。そこで、アジアに関わる戦争とその影響について見ていこう。

1840 年に起こったアヘン戦争は清とイギリスとの戦争であった。18 世紀の終わりに、イギリスが派遣し、乾隆帝に謁見した A の使節団の事例が示すように、イギリスは中国との貿易の拡大、自由貿易の実現を望んでいた。19 世紀にはいり、広州における貿易が拡大する中、イギリス、中国、B の間で行われた三角貿易も拡大していた。この貿易を通じて中国から銀が流出したことによって、中国国内で銀価格が高騰し、さまざまな経済問題が生じた。銀流出の一つの要因であったアヘンを取り締まるために、広州に派遣された C がアヘンを没収して廃棄したことを口実に、イギリスはアヘン戦争を引き起こした。1842 年にイギリスは清と南京条約を締結し、五港が開港され、貿易の拡大が期待された。しかし、開港後の貿易が低迷したため、イギリスはフランスと共に第二次アヘン戦争(アロー戦争)を起こした。戦争に勝利したイギリス、フランスは、清との間に北京条約を締結した。その結果、清は北京におかれた公使館や外交使節に対応するために、外交機関を設立した。

19 世紀の終わりには、日清戦争が勃発した。中国の開港以降、日本や朝鮮でも日米和親条約や日朝修好条規等の条約を通じて開港場が設置され、開港場間の海上貿易は急速に拡大していた。その一方で、朝鮮国内では、1870 年代から 1880 年代にかけて、政治体制の変革やそれに関わる反乱が生じていた。加えて、朝鮮の開港後、朝鮮をめぐる日本と清との間で対立が深まっていた。1894 年に全 瑑準らが起こした農民蜂起である D 戦争が拡大すると、日清両国が出兵して、日清戦争となった。これに敗れた清は日本との間に下関条約を締結し、遼東半島が日本に割譲された。この遼東半島の割譲に対して、ロシアを含む 3 か国が干渉したため、遼東半島は清に返還された。

その後、日本とロシアは 1897 年に国号を大韓帝国と改めた朝鮮の支配権をめぐる争いを拡大した。日本は、ロシアと対抗するために、イギリスとの間に 1902 年に同盟を結んだ。1904 年には日露戦争が始まって日本が勝利し、翌年にはアメリカ合衆国の E 大統領の仲介によって条約が締結された。その条

約によって、日本は賠償金を得られなかったものの、^(c)東清鉄道南部の利権等を得た。

第一次世界大戦では、東アジアは直接ヨーロッパ諸国間の戦場にならなかったが、ヨーロッパ諸国の植民地や、それらが領有権を得ていた地域があったため、間接的に東アジアは戦争の影響を受けることとなった。日本は、日英同盟を理由に参戦し、中国におけるドイツの租借地を占領するなどして、中国への影響力を強めた。その後、日本によってドイツ利権の継承等を内容とする F の要求が袁世凱^{えんせいがい}政権に突きつけられるなど、中国は苦境に陥った。その一方で、^(k)第一次世界大戦は、中国の経済に対して、発展の好機をもたらした。また、この時期には、国外のさまざまな思想が紹介され、^(け)新文化運動がおこった。

第二次世界大戦では、アジアの広い地域^(け)で戦争が行われた。すでに、1930年代の中国では、^(こ)満洲事変以降、日本との間に何度も軍事衝突が起こっていた。1937年7月7日に北京の郊外でおこった日本軍と中国軍の軍事衝突である盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まった。日中戦争が長引く中、日本は東南アジアを侵略し、イギリス、アメリカ合衆国に宣戦した。第二次世界大戦が全世界に広がる戦争となる中で、日本は、アジア各地で敗退を重ね、その結果、1945年8月にポツダム宣言を受諾して無条件降伏した。第二次世界大戦が終わると、植民地化されていた^(き)アジアの諸国は、独立を達成することとなった。

問 1 文中の空欄 A ～ F にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 2 文中の——線部(a)～(c)に関する以下の問に答えよ。解答はすべて別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (a) この外交機関は何か。
- (b) この締結の要因となった 1875 年に起こった朝鮮と日本の武力衝突は何か。
- (c) この鉄道利権を得ることによって 1906 年に設立された株式会社は何か。

問 3 文中の〰線部(あ)～(さ)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

(あ) これに関連する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 宋代に、毎年銀等を契丹に送ることを約束した澶淵^{せんえん}の盟^{めい}が結ばれた。
- (2) 元代に、銀の流通量の不足を補うために、交鈔^{こうしょう}が発行された。
- (3) 明代に、労役や税を銀に一本化して納入する一条鞭法が定められた。
- (4) 清代に、地丁銀制が導入された。
- (5) 中華民国期に、法幣と呼ばれる銀貨が発行された。

(い) この五港に含まれない開港場は、以下のうちどれか。

- (1) ア 厦 門^{モイ} (2) シャン 上 海^{ハイ} (3) 天 津
- (4) ニン 寧 波^{ポー} (5) 福 州

(う) この条約の内容に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。

- (1) アヘン貿易の禁止
- (2) 九竜半島南部(先端部)のイギリスへの割譲
- (3) キリスト教布教の禁止
- (4) 香港島のイギリスへの割譲
- (5) フランスによる旅順の租借

(え) これについて述べた以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i 閔氏^{びんし}らは日本の支持を受けて、政治改革をおこなった。
- ii 壬午軍乱がおこった。
- iii 金玉均は清の支持を背景に甲申政変をおこした。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| (1) i — 正 ii — 正 iii — 正 | (2) i — 正 ii — 正 iii — 誤 |
| (3) i — 正 ii — 誤 iii — 正 | (4) i — 正 ii — 誤 iii — 誤 |
| (5) i — 誤 ii — 正 iii — 誤 | (6) i — 誤 ii — 正 iii — 正 |
| (7) i — 誤 ii — 誤 iii — 正 | (8) i — 誤 ii — 誤 iii — 誤 |

(お) これに関連しておこった出来事について述べた以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

i 日本が台湾を領有した。

ii 日本が千島列島を領有した。

iii この戦争の後に沖縄県が設置された。

(1) i—正 ii—正 iii—正 (2) i—正 ii—正 iii—誤

(3) i—正 ii—誤 iii—正 (4) i—正 ii—誤 iii—誤

(5) i—誤 ii—正 iii—誤 (6) i—誤 ii—正 iii—正

(7) i—誤 ii—誤 iii—正 (8) i—誤 ii—誤 iii—誤

(か) これに関してロシア以外の 2 か国の組み合わせとして、正しいものはどれか。

(1) ドイツ・フランス

(2) ドイツ・ベルギー

(3) フランス・ベルギー

(4) ベルギー・アメリカ合衆国

(5) アメリカ合衆国・スペイン

(6) ドイツ・スペイン

(7) ドイツ・アメリカ合衆国

(8) フランス・スペイン

(き) これに関連する出来事について述べた以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

(1) 日本軍は旅順を占領した。

(2) 日本は膠州湾を租借した。

(3) ポーツマスで講和条約が締結された。

(4) 第一次ロシア革命がおこった。

(5) この戦争の後に日露協約が結ばれた。

(く) これに関連して、中国の経済について述べた以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

i 日本の紡績業が中国に進出した。

ii 中国では民族資本の中国企業が発展した。

iii 中国では都市労働者が増加した。

(1) i—正 ii—正 iii—正 (2) i—正 ii—正 iii—誤

(3) i—正 ii—誤 iii—正 (4) i—正 ii—誤 iii—誤

(5) i—誤 ii—正 iii—誤 (6) i—誤 ii—正 iii—正

(7) i—誤 ii—誤 iii—正 (8) i—誤 ii—誤 iii—誤

(け) この運動を推進し、雑誌『新青年』を創刊した人物として、正しいものはどれか。

- (1) 胡 適 (2) 孫 文 (3) 陳独秀
(4) 梁啓超 (5) 魯 迅

(こ) これに関連する出来事について述べた以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 上海で軍事衝突がおこった。
(2) リットン調査団が派遣された。
(3) 柳条湖で鉄道の爆破がおこった。
(4) 日本が国際連盟を脱退した。
(5) 溥儀を臨時大総統とする満洲国が建国された。

(さ) これらの国のうち、欧米諸国に植民地化されなかった国はどれか。

- (1) インドネシア (2) タ イ(シヤム) (3) ビルマ
(4) フィリピン (5) ベトナム

⑥5 I 2026年度 世界史

問題冊子 (1～13 ページ)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで, この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明, ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は, 手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし, 解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に印刷してある受験学部・学科コード, 受験番号, 氏名(カタカナ)を確認し, 氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし, 印刷に間違いがあった場合は, 手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例 1. 〔語群〕が二桁で (11) 大阪 (12) 佐賀 (13) 長崎 (14) 東京 とある場合

	A		B		C	
問 X	16	17	18	19	20	21
	/	2	/	4	/	/

A の解答が佐賀の場合 → (17) に記入
 B の解答が東京の場合 → (19) に記入
 C の解答が大阪の場合 → (21) に記入

例 2. 〔語群〕が一桁で (1) 大学 (2) 中学校 (3) 高校 (4) 小学校 とある場合

	a	b	c
問 X	51	52	53
	/	4	2

a の解答が大学の場合 → (51) に記入
 b の解答が小学校の場合 → (52) に記入
 c の解答が中学校の場合 → (53) に記入

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

歴史を振り返ると、人類はいつも戦争ばかりをしている。戦争で用いられる兵器や戦術、そして軍隊のあり方は、それぞれの社会の統治・支配や政治のあり方を映し出す鏡でもある。古代世界を中心に、戦争と社会の関係性をみていこう。

紀元前 17 世紀半ば頃にアナトリア高原に王国を建てたインド＝ヨーロッパ語系の A は、鉄製武器と馬にひかせた戦車を用いた強力な軍隊を組織し、前 16 世紀にはメソポタミアに侵入して古バビロニア王国(バビロン第 1 王朝)を滅ぼし、^(a) オリエント地域で強大な勢力を誇った。 エジプトでは、中王国時代の末期に遊牧民で諸民族の混成集団であった B が馬と戦車をもって侵入し、ナイル下流域を支配した。前 16 世紀には、エジプト人による再統一がなされ、新王国時代には、B の軍事技術を取りいれてシリアにまで進出した。前 13 世紀、シリアをめぐる A とエジプト新王国のラメス 2 世がカデシュで戦い、世界最古の国際条約を結んだといわれる。

鉄製の武器と戦車にくわえ、騎馬隊を組織して勢力をのばした C は、前 7 世紀前半にオリエント全土を統一し、多数の民族を支配する帝国を形成した。その滅亡後、イラン高原では D がエクバタナを都に王国を建て、騎馬隊を主力とする軍隊でアナトリア東部にまで進出した。前 550 年に D 王国を滅ぼしたキュロス 2 世が^(b) アケメネス朝ペルシアを建国し、オリエント全土を統一した。

古代ギリシアでは、市民自らが自費で武具を調達して^(a) 重装歩兵となり、ポリスの軍隊の主力をなした。とくに^(c) スパルタは、少年期から市民の軍事訓練を行い、ギリシア随一の陸軍力を有するポリスとなった。一方、海軍力にすぐれていたアテネでは、^(d) ペルシア戦争において、漕ぎ手が上中下の三段に並んだ^{さんだんかいせん} 三段櫓船が用いられた。アテネでは、軍船の漕ぎ手として活躍した下層市民も国政に参加するようになり、E の指導のもと民会を中心とする直接民主政が完成した。

その間、ペルシア軍の再来にそなえてデロス同盟が結成され、アテネがその盟主となった。しかし、そのアテネに対し、スパルタを盟主とする F 同盟が対立を深め、前 431 年、ギリシアを二分する F 戦争が勃発する。はじめ優勢であったアテネは、疫病の流行で E を失うと、その後は指導者に

恵まれず、前 404 年、ペルシアの支援を受けたスパルタに全面降伏した。その後もポリス間の抗争は激しさを増し、市民からなる重装歩兵軍にかわって、傭兵や軽装兵がさかんに用いられるようになり、市民がポリスを自衛するという原則は失われていった。

共和政のローマでは、政治を主導する貴族(パトリキ)に対し、重装歩兵として国防を担い、戦いに参加して領土拡大にも貢献した平民(プレブス)が、身分や権利における不平等の是正を求める闘争を繰り広げた⁽ⁱ⁾。他方、内部の不満のはけ口を外に求め対外進出に熱意を注いだローマは、前 3 世紀前半にはイタリア半島の覇者となった。さらに西地中海の制海権を握っていたカルタゴと激しい覇権争いをくりひろげ、3 回にわたるポエニ戦争を引き起こした。第 2 回目の戦いでは、カルタゴの将軍がヒスパニアから戦象^{せんぞう}とともに陸路でアルプスを越えてイタリア⁽⁵⁾に侵入し、一時ローマ軍を窮地に追いやった。しかし最終的には、第 3 回目のポエニ戦争でカルタゴを完全に壊滅させたローマが地中海の覇権を握る。

急速な領土の拡大は、ローマ社会に変質をもたらした。イタリア半島以外の征服地を属州として支配したが、総督として属州統治を担った元老院貴族や徴税を請け負った騎士身分のもとに富が集中する一方で、絶え間ない外征で国防の主力を担っていた農民層は疲弊した。荒廃した土地は富裕者によって買い集められ、戦争捕虜を奴隷として使役する大規模な農場経営が行われた。重装歩兵として活躍した農民層の没落という危機に対し、グラックス兄弟が改革を試みるも失敗に終わる。その後、土地を失った多くの市民が有力者の私兵となった。前 1 世紀には、平民派と閥族派^(e)が対立抗争を繰り返し、それぞれ私兵を率いて外征や奴隷反乱の鎮圧などで功績を競いあった。「内乱の 1 世紀」と呼ばれる政治的な混乱は、前 27 年にオクタウィアヌスが元老院からアウグストゥスという称号を得ることで、終わりを告げる。ローマ皇帝が、軍の最高司令官(インペラトル)として、帝国のトップに君臨する帝政時代が始まるのである。

問 1 文中の空欄

A

 ～

F

 にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の——線部(あ)～(え)に関する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は、正しい漢字で書け。

- (あ) 彼らが身体を寄せ合って丸盾で自分たちを守りながら隊列を組む戦闘方法を何というか。
- (い) この結果、前 367 年に制定され、執政官の 1 人を平民から選ぶことを定めた法は何か。
- (う) この将軍を打ち破り、戦局を挽回したローマ将軍は誰か。
- (え) このような大所領での農場経営やその所有制度のことを何というか。

問 3 文中の〰線部(a)～(e)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (a) これを建国した民族として正しいものは、以下のうちどれか。
 - (1) アッカド人 (2) アムル人 (3) アラム人
 - (4) カッシート人 (5) シュメール人
- (b) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) 「王の道」と呼ばれる公道(国道)が整備された。
 - (2) 全土は州に分けられ、サトラップが任命された。
 - (3) 「王の目」「王の耳」と呼ばれる監督官が州行政を監督した。
 - (4) 被征服民に厳格な政策をとり、重税や強制移住を実施した。
 - (5) ダレイオス 1 世は、エーゲ海北岸からインダス川にいたる大帝国を建設した。
- (c) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) 厳しい軍国主義的な規律に従って市民が生活するリュクルゴス体制がとられた。
 - (2) ドーリア系の少数の市民が、被征服先住民であるヘイロータイ(隷属農民)を支配した。
 - (3) 僭主^{せんしゅ}の出現を防ぐために、陶片追放(オストラキスモス)の制度が定められた。
 - (4) 商工業に従事したペリオイコイ(周辺民)も市民に隷属していた。
 - (5) 他国との自由な行き来を禁止する鎖国政策をとった。

(d) これについて述べた以下の短文 i ~ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

i アテネは、マラトンの戦いでペルシア軍にやぶれた。

ii アテネは、サラミスの海戦でペルシア軍をやぶった。

iii ヘロドトスがこの戦争の歴史を描いた。

(1) i—正 ii—正 iii—正 (2) i—正 ii—正 iii—誤

(3) i—正 ii—誤 iii—正 (4) i—正 ii—誤 iii—誤

(5) i—誤 ii—正 iii—正 (6) i—誤 ii—正 iii—誤

(7) i—誤 ii—誤 iii—正 (8) i—誤 ii—誤 iii—誤

(e) これらの派閥を代表する人物の組み合わせとして正しいものは、以下のうちどれか。

(1) 平民派—マリウス 閥族派—スラ

(2) 平民派—マリウス 閥族派—スパルタクス

(3) 平民派—スラ 閥族派—マリウス

(4) 平民派—スラ 閥族派—スパルタクス

(5) 平民派—スパルタクス 閥族派—マリウス

(6) 平民派—スパルタクス 閥族派—スラ

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

産業革命を経て資本主義が発展した欧米の列強は、アジアとアフリカに植民地
(a) や勢力圏をうちたてた。(b) この動きが帝国主義である。19世紀前半まで、ヨーロッパ人のアフリカに関する知識は、北部や西部、ならびにインド航路の港などの沿岸部に限られていた。同世紀半ば、イギリス人の宣教師(ア)やイギリス生まれのアメリカ人である新聞記者スタンリーが中央アフリカを探検して事情を伝えたのち、列強はこの地域に関心を示すようになった。帝国主義のもとで、アフリカの植民地化は進んだ。20世紀初頭には、 A 帝国と B 共和国を除いて、アフリカは列強の支配下に置かれた。

1902年に書籍として出版された『闇の奥』は、イギリスの小説家であるジョゼフ＝コンラッドの代表作である。コンラッドは、ロシア帝国のキエフ県(現在のウクライナ)でポーランドの没落貴族の家に生まれた。故郷を離れた彼は、フランスやイギリスの商船で船員として世界各地を航海して、イギリス国籍を取得した。

『闇の奥』は、コンラッドの船員時代の経験をもとに書かれている。この作品は、ヨーロッパによるアフリカの植民地化に対する批判と解釈されている。小説の舞台の C 川一带に存在した C 自由国は、ベルギー国王レオポルド2世の私領であった。ベルギーは、1830年に起こったフランスの七月革命の影響のもと、立憲王国として D から独立した。第2代国王であったレオポルド2世は、スタンリーを支援して C 一带を探検させた。 C 自由国は、ドイツ帝国の宰相 E の提唱で開催された1884～85年のベルリン会議で、設立を認められたが、レオポルド2世の過酷な支配で知られていた。

以下は、『闇の奥』のあらすじである。商社に雇われた主人公の船員マーロウは、アフリカの出張所へ赴いた。同じ商社に雇われたクルツという代理人はアフリカの奥地にて、そこから大量の象牙を送ってくる優秀な人物であった。病気になったらしく戻ってこないクルツを救出するために、マーロウたちはアフリカの奥地へと C 川を遡り、クルツとの対面を果たす。

『闇の奥』を翻案したのが、1979年にアメリカ合衆国で公開された映画『地獄の

黙示録』である。フランシス＝フォード＝コッポラが監督したこの映画は、19世紀のアフリカではなく20世紀のベトナム戦争下の東南アジア、特に旧フランス領インドシナを舞台とする。だが、ベトナム戦争の終戦直後であり、ベトナムでの撮影が出来なかったため、フィリピンで撮影が行われた。

以下は、『地獄の黙示録』のあらすじである。ベトナム戦争のさなか、主人公であるアメリカ軍の工作員ウィラード大尉は、同じアメリカ軍のカーツ大佐を暗殺する命令を受ける。カーツ大佐はかつては優秀な軍人であった。だが、カーツは軍の命令を無視して、彼が神のように崇められる独立王国を（イ）のジャングルに築いていた。ウィラードたちは、カーツが支配する王国へと哨戒艇で川を遡行する。主人公はその過程で戦争の暴力や狂気を目の当たりにしつつ、カーツとの対面を果たす。

『地獄の黙示録』の内容は、アメリカ合衆国のベトナム戦争への深い関与に対する批判であると評される。第二次世界大戦後、東南アジアでは植民地の独立が相次いでいた。『地獄の黙示録』の撮影地であるフィリピンはアメリカ合衆国から独立し、インドネシアは から独立した。フランス領インドシナは、現在のラオス、（イ）、ベトナムの3か国に分かれて独立した。

フランスからの独立に成功したベトナムだったが、ソヴィエト社会主義共和国連邦(ソ連)が支援するベトナム民主共和国(北ベトナム)とアメリカ合衆国が支援するベトナム共和国(南ベトナム)に分断された。ベトナム戦争が始まると、民主党の（ウ）大統領の政権下で、アメリカ合衆国は、1965年以後大規模な爆撃を行い、ベトナムに最大で約50万人の地上兵力を派遣した。だが、戦局は泥沼化し、国内外からの批判も高まった。1968年の大統領選挙で勝利した共和党のニクソンはアメリカ軍を撤退させた。北ベトナムと、これと連携する南ベトナム解放民族戦線は、1975年に南ベトナムの首都 を占領し、ベトナム戦争は終結した。

問1 文中の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の空欄(ア)～(ウ)にあてはまる最も適切な語句を、下記の語群の中から選び、その番号を別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | |
|--------------|-------------------|
| (11) アイゼンハワー | (12) アムンゼン(アムンセン) |
| (13) カーター | (14) カンボジア |
| (15) クック | (16) ケネディ |
| (17) ジョンソン | (18) パキスタン |
| (19) ピアリ | (20) ビルマ(ミャンマー) |
| (21) マレーシア | (22) リヴィングストン |

問 3 文中の下線部(a)～(f)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

(a) これに関連する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) スティーヴンソンが蒸気機関車を実用化した。
- (2) 世界に先がけて、イギリスではじまった。
- (3) 綿工業の技術革新は水力紡績機の発明からはじまった。
- (4) ラダイト(機械打ちこわし)運動が起こった。
- (5) ワットが蒸気機関を改良した。

(b) これに関連する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) イギリスのヴィクトリア女王がインド皇帝に即位した。
- (2) タイは独立を維持して植民地にならなかった。
- (3) ドイツがモロッコ事件をおこした。
- (4) フランスがエジプトのオラービー(ウラービー)運動を制圧した。
- (5) ペナン・マラッカ・シンガポールはイギリスの海峡植民地に編成された。

(c) この国に関する出来事 i ~ iii が、年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。

- i ナチス = ドイツとソ連によって分割占領された。
- ii ポズナニ(ポズナン)で起こった暴動をゴムウカ(ゴムルカ)が収拾した。
- iii ワレサ(ヴァウエンサ)を指導者とする自主管理労組「連帯」が組織された。

- (1) i → ii → iii (2) i → iii → ii (3) ii → i → iii
(4) ii → iii → i (5) iii → i → ii (6) iii → ii → i

(d) この国に関する以下の短文 i ~ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i ポルトガルからアメリカ合衆国に割譲された。
- ii マゼラン(マガリャンイス)の船隊が到達した。
- iii マルコスが開発独裁をすすめた。

- (1) i — 正 ii — 正 iii — 正 (2) i — 正 ii — 正 iii — 誤
(3) i — 正 ii — 誤 iii — 正 (4) i — 正 ii — 誤 iii — 誤
(5) i — 誤 ii — 正 iii — 正 (6) i — 誤 ii — 正 iii — 誤
(7) i — 誤 ii — 誤 iii — 正 (8) i — 誤 ii — 誤 iii — 誤

(e) この国に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) アフガニスタンに軍事侵攻したが、撤退した。
- (2) 一国社会主義論を唱えるトロツキーが実権を握った。
- (3) フルシチョフ第一書記が訪米した。
- (4) レーニンは、新経済政策(ネップ)を宣言して市場経済の導入に踏みきった。
- (5) ワルシャワ条約機構を結成した。

(f) この人物に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) ウォーターゲート事件で大統領を退任した。
- (2) 沖縄を日本に返還した。
- (3) 中華人民共和国を訪問し、毛沢東と会談した。
- (4) ドルと金の^{きん}兌換^{だかん}停止を発表した。
- (5) ニューディールと呼ばれる経済政策を実行した。

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

アジアにおいて、龍は古くから多くの故事や伝説とともに語られる存在であった。なぜ、人々は架空の生き物である龍を身近に思い描き、信仰してきたのであろうか。ここではアジアにおける龍の存在や意義について考えてみたい。

中国では、新石器時代には龍を象った玉器が作成され、殷代の(あ)文字にもすでに「龍(竜)」の文字が見られるように、古くから龍を崇拝の対象としてみなしてきたことがうかがえる。戦国時代以来の長江流域の詩歌(屈原らの作品)が集められた『A』には、飛龍(イ)に乗る水神の様子がうたわれており、唐代に編纂さんされた『歴代名画記』には、南朝梁の画家張僧繇ちやうそうようが寺の壁に龍を描き、最後に瞳をかき入れたところ、たちまち天に飛び去ったという「画龍点睛」の故事が伝わっている。

このように詩文や絵画には龍にまつわる不可思議な話が数多く残されているが、歴史書にも類い希まれな能力を持った者を龍に例える記述が散見する。例えば、司馬遷が著した『B』には、容易には理解しがたい老子について、孔子が「龍のような存在だ」と評価する言葉が見られ、『後漢書』には、(b)「黄河上流の峡谷の滝を魚(鯉)が登ると龍になる」という伝説から、難関を突破して世に出るお墨付きをもらうことが「登龍門」の語で示されている。また、三国時代について記された正史からは、後に蜀の宰相となった諸葛亮(ロ)が出世前に「臥龍がりよう」と呼ばれていたことがうかがえる。

さらに、龍は早くから皇帝と関連づけられ、皇帝を象徴するものとしても捉えられてきた。『B』には農民から成り上がり漢を建てた劉邦(c)について、母親が蛟龍こうりゅうと交わって身ごもったと記されており、五代の武将から身をおこしたCは、龍の文様が施された外衣こうほう(黄袍)(ハ)を着せられ、部下に推されて即位し、宋(北宋)を建てたのだと語られている。さらに、辛亥革命の後、(い)帝(ニ)を退位させた袁世凱えんせいがいにも、後に自らが皇帝に即位する際に、「龍が現れた」として、帝位就任を決定づけようと試みたエピソードが見られる。

このように、龍と王者とを結びつける故事は、中国のみならず、アジアに広く残されている。例えば、13世紀末に著された『三国遺事』には、母親が龍と通じて百濟の武王が生まれたという逸話が見られ、また高麗を建国したD(d)に

も、祖父が龍女と出会い婚姻したという伝承がある。11世紀、北ベトナム初の長期王朝である（う）朝にも、都をハノイの地に定めると、黄金の龍が現れたため、そこでこの地を昇龍^{タンロン}と命名したのだという興味深い故事がある。これらは、中国の龍伝承の影響を受けたものであると言えるだろう。

一方、龍の故事・伝説の系譜には、インドのナーガ(蛇族)に連なるものもある。ナーガは（え）朝期に現在のかたちにまとめられた叙事詩『マハーバーラタ』^(c)に登場する蛇神(コブラ)であり、後に仏教に取り入れられると、雨をもたらす八部衆の龍になったとされている。また、同じく『マハーバーラタ』に登場し、ナーガと敵対する神鳥ガルダは、ヴィシュヌ神の乗り物として、タイやインドネシアなどで崇拝され続けており、1930年には、ビルマでもガルダ信仰を掲げた農民反乱が起こっている。^(t)

アジアで語られる龍は、風雨などの自然現象に通じる水神として、また数々の神話や詩画の中で語られる神秘的な存在として認識されてきた。それは時に人々に恩恵を施し、時に畏怖の念を抱かせる権力や信仰の象徴であったと考えられる。

問 1 文中の空欄（あ）～（え）にあてはまる最も適切な語句を下記の語群の中から選び、その番号を別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|---------------|---------------------------------------|------------|
| (11) ウマイヤ | (12) 楔 ^{くさび} 形 ^{がた} | (13) クシャーナ |
| (14) グプタ | (15) 阮 ^{げん} | (16) 乾 隆 |
| (17) 甲 骨 | (18) 光 緒 | (19) 洪 武 |
| (20) サータヴァーハナ | (21) 清 | (22) 神 聖 |
| (23) 西 夏 | (24) 線 | (25) 宣 統 |
| (26) 陳 | (27) 同 治 | (28) マウリヤ |
| (29) 李 | (30) 黎 ^{れい} | |

問 2 文中の空欄 A ～ D にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

問 3 文中の——線部(a)~(e)に関する以下の問に答えよ。解答は最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (a) この人物とともに「六朝の三大画家」と言われ、「女史箴図」^{じょししんず}の作者と考えられている人物は誰か。
- (b) この歴史書には、後漢の光武帝から当時の日本のある首長に印章が贈られたことが記述されている。江戸時代に発見されて、この印章と推定されている金印に刻まれていた漢字 5 文字は何か。
- (c) この人物が挙兵する契機となった農民反乱を何というか。
- (d) この国への日本の援軍が、唐と新羅の連合軍に敗れた戦いを何というか。
- (e) この作品は、12 世紀のクメール王国の王が造営したヒンドゥー教遺跡の壁面にも浮き彫りにされているが、その遺跡を何というか。

問 4 文中の~~~~線部(i)~(t)に関する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に番号で記入せよ。

- (イ) この時代に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
- (1) 韓が戦国の七雄の一つとなった。
- (2) 青銅貨幣が普及した。
- (3) 董仲舒^{とうちゆうじょ}が五経を重視した。
- (4) 諸侯がそれぞれ王を自称した。
- (5) 商鞅^{しょうおう}が秦に仕えた。
- (ロ) この時代に関する以下の短文 i ~ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。
- i 蜀で九品中正(九品官人法)が開始された。
- ii 四川に呉が建国された。
- iii 魏の都が建康におかれた。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) i—正 ii—正 iii—正 | (2) i—正 ii—正 iii—誤 |
| (3) i—正 ii—誤 iii—正 | (4) i—正 ii—誤 iii—誤 |
| (5) i—誤 ii—正 iii—正 | (6) i—誤 ii—正 iii—誤 |
| (7) i—誤 ii—誤 iii—正 | (8) i—誤 ii—誤 iii—誤 |

(ハ) この5つの王朝に当てはまらないものはどれか。

- (1) 後 金 (2) 後 周 (3) 後 晋
(4) 後 唐 (5) 後 梁

(ニ) この時代の制度について説明した以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 科挙制度が官吏登用の中心となった。
(2) 王安石が新法を推進した。
(3) 交子が発行された。
(4) 一条鞭法が実施された。
(5) 行・^{こう}・^{さく}作などの同業組合が生まれた。

(ホ) この人物に関する以下の短文 i ~ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i 革命勢力と取引し、臨時大總統に就任した。
ii 国民党を結成した。
iii 二十一カ条の要求の大半を認めた。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) i—正 ii—正 iii—正 | (2) i—正 ii—正 iii—誤 |
| (3) i—正 ii—誤 iii—正 | (4) i—正 ii—誤 iii—誤 |
| (5) i—誤 ii—正 iii—正 | (6) i—誤 ii—正 iii—誤 |
| (7) i—誤 ii—誤 iii—正 | (8) i—誤 ii—誤 iii—誤 |

(ヘ) この宗教に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 仏図澄が華北へ布教に訪れた。
(2) 統一新羅では仏教が保護された。
(3) 大乘仏教がガンダーラ様式とともに中央アジア・東アジアに伝来した。
(4) 高麗では大蔵経が刊行された。
(5) 太平道が紅巾の乱を起こした。

(ト) これに関連して、1920～30年代の東南アジアの民族運動について説明した以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) マラヤ連邦がイギリスから独立した。
- (2) インドシナ共産党が結成された。
- (3) フィリピン独立法(独立の約束)が成立した。
- (4) ビルマでタキン党が結成された。
- (5) インドネシア国民党が結成された。

一般選抜(前期日程)

●人文学部 ●法学部 ●経済学部 ●商学部(会計専門職プログラム除く) ●商学部第二部(商学科)
●理学部(社会数理・情報インスティテュート)

⑥⑥ I 2026年度 世界史

問題冊子 (1～12 ページ)

注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例 1. 〔語群〕が二桁で (11) 大阪 (12) 佐賀 (13) 長崎 (14) 東京 とある場合

	A		B		C	
問 X	16 /	17 2	18 /	19 4	20 /	21 /

A の解答が佐賀の場合 → (17)

B の解答が東京の場合 → (19)

C の解答が大阪の場合 → (21)

例 2. 〔語群〕が一桁で (1) 大学 (2) 中学校 (3) 高校 (4) 小学校 とある場合

	a	b	c
問 X	51 /	52 4	53 2

a の解答が大学の場合 → (51)

b の解答が小学校の場合 → (52)

c の解答が中学校の場合 → (53)

〔Ⅰ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

ドイツ連邦共和国(西ドイツ)がドイツ民主共和国(東ドイツ)を吸収合併してドイツが統一したのは1990年10月3日のことであり、ドイツ郵便は同日、それを記念する切手を発行した。翌月、「ベルリンの壁」崩壊1周年記念切手が発行された。ドイツの首都であったベルリンは、第二次世界大戦後に東西に分割されたが、東側住民の西側への逃亡が続発し、それを阻止するために東ドイツが両地区の間に建設したのが「ベルリンの壁」である。いわゆる東側諸国と西側諸国との間の冷戦状態は、ソヴィエト連邦で1953年から(イ)が指導者となってからいったんは緩んだものの、1960年ころから再び緊張が高まった。「ベルリンの壁」が築かれたのはそのさなかの1961年のことである。

1996年6月、数学者・哲学者ライプニッツの生誕350周年記念切手が発行された。彼は微積分学の研究で知られるが、同じ頃にイギリスの A も同じ分野に取り組んでいた。A は力学の諸法則を体系化した『プリンキピア』の著者でもあるが、ドイツ人ではないにもかかわらず、ドイツ郵便はその生誕350周年記念切手を1993年1月に発行した。彼の誕生日はイギリスで当時用いられていたユリウス暦では1642年12月25日だが、^(あ)グレゴリウス暦では1643年1月4日に相当し、切手でも生年として「1643」と記されている。

1995年2月、ブランデンブルク選帝侯国の君主フリードリヒ＝ヴィルヘルムの生誕375周年記念切手が発行された。切手図案は、フランス出身の画家ロマン・ドン父子が描いた彼の肖像画である。父子は、フランスでは(ロ)と呼ばれたカルヴァン派に属していた。フランス王 B は1598年に(ロ)の信仰の自由を認めるナントの王令を発したが、後にこれが廃止されると、ロマン・ドン父子はブランデンブルク選帝侯国に亡命し宮廷画家として迎えられた。

1997年9月、ドイツでのジャガイモ栽培350周年記念切手が発行された。アメリカ原産のジャガイモは、ヨーロッパでは当初、観賞用・薬用として栽培されたが、ブランデンブルク選帝侯国の流れを引くプロイセン王国では18世紀に、(ハ)様式のサンスーシ宮殿を建てたフリードリヒ2世(大王)のもとで食用が奨励された。

2000年1月、アーヘン大聖堂1200周年記念切手が発行された。切手には、こ

の大聖堂を建てたカール大帝(シャルルマーニュ)の胸像が描かれている。フランク王国の国王として領土を広げた彼は、西ヨーロッパの主要部分を統一した。これを西ローマ帝国の復活とみなしたローマ教皇 C は大聖堂の工事が進む800年のクリスマスの日、カールにローマ皇帝の冠を授けた。

2006年1月、金印勅書650周年記念切手が発行された。神聖ローマ帝国での政治的混乱を收拾するために皇帝 D が発した金印勅書により、7人の選帝侯の皇帝選出権や、その他のさまざまな特権が認められた。その後、それらの特権が他の諸侯に拡大されたこともあり、諸侯の領土が領邦として分立するようになる。17世紀の三十年戦争の後に締結されたウェストファリア条約では、領邦の主権の拡大が認められ、神聖ローマ帝国は名目だけのものとなった。

2006年9月には、ハンザ同盟650周年記念切手も発行されている。北海・バルト海商業に関わる北ドイツ諸都市の間では、13世紀から個別の都市間協定が成立していた。1356年、毛織物工業で繁栄した(ニ)地方の都市ブリュージュ(ブルッヘ)に滞在中のドイツ人商人たちが地元商人たちとの間で紛争を抱え、出身地の北ドイツ諸都市に救援を求めた。これを受けて、ドイツ北部の港湾都市(ホ)を中心に諸都市がまとまったことで都市同盟としてのハンザ同盟が明確になり、(ホ)がその主導権を握った。

(ホ)の初期の発展に貢献したのはザクセン公ハインリヒであるが、彼の死去800周年記念切手が1995年7月に発行されている。ハインリヒは神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世と対立し、妻がプランタジネット朝を開いた E の娘であったので、一時はイングランドに逃れていた。その後、フランス王フィリップ2世らとともに第3回十字軍に参加したフリードリヒ1世は途中で事故死したが、ハインリヒは次の皇帝と和解した。

2007年1月、ザール地方のドイツへの編入50周年記念切手が発行された。この地方の帰属をめぐっては過去に紛争が生じており、第二次世界大戦後しばらくは隣国の支配下に置かれ、1957年1月に西ドイツに編入された。

2009年6月、トイトブルクの森の戦い2000周年記念切手が発行された。これは、アルミニウスが率いるゲルマン人の連合軍が、ワルス将軍の率いるローマ軍を破った戦いである。切手には、アルミニウスをたたえる記念碑の他、当時ローマを統治していたオクタウィアヌスの胸像も描かれているのである。

(お)

問 1 文中の空欄 A ～ E にあてはまる最も適切な人名を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の空欄(イ)～(ホ)にあてはまる最も適切な語句を、下記の語群の中から選び、番号で別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| (11) エリツィン | (12) ガン(ヘント) | (13) ケルン |
| (14) ゴイセン | (15) ゴシック | (16) ゴルバチョフ |
| (17) シャンパーニュ | (18) シュレジエン | (19) スターリン |
| (20) トロツキー | (21) バロック | (22) ハンブルク |
| (23) ビザンツ | (24) ピューリタン | (25) フランドル |
| (26) フルシチョフ | (27) プレジネフ | (28) プレスビテリアン |
| (29) プレーメン | (30) ユグノー | (31) リューベック |
| (32) ロココ | (33) ロマネスク | (34) ロンバルディア |

問 3 文中の下線部(あ)～(お)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

(あ) この暦に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) この暦は、太陽暦の一種である。
- (2) この暦は、紀元前1世紀に制定された。
- (3) この暦の制定者は、『ガリア戦記』を著した人物である。
- (4) この暦は、イスラーム暦(ヒジュラ暦)に由来する。
- (5) ロシアでは、第一次世界大戦開戦時にはこの暦が用いられていた。

(い) この戦争と条約に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) この戦争の発端となったのは、ベーメン(ボヘミア)でのプロテスタントの抵抗である。
- (2) フランスは、神聖ローマ皇帝を支援する立場でこの戦争に参戦した。
- (3) スウェーデンは、国王グスタフ＝アドルフのもとでこの戦争に参戦した。
- (4) この条約では、スイスの独立が承認された。
- (5) この条約では、カルヴァン派の信仰が公認された。

- (う) この人物に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。
- (1) この人物は、パリ伯であったが王位に就いてカペー朝を開いた。
 - (2) この人物は、ローマ教皇グレゴリウス 7 世と対立し彼から破門された。
 - (3) この人物は、ローマ教皇ボニファティウス 8 世と対立し一時は彼を捕えた。
 - (4) この人物は、イングランドのジョン王から大陸側のイングランド領の大半を奪った。
 - (5) この人物が即位した際に、イングランド王エドワード 3 世がフランス王位継承権を主張して百年戦争が始まった。
- (え) この地方に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。
- (1) この地方は、デンマーク戦争後にデンマークからプロイセンとオーストリアに割譲された。
 - (2) この地方は、フランスからドイツに割譲され、第一次世界大戦後にフランスに返還された。
 - (3) この地方は、第一次世界大戦後にドイツからポーランドに割譲された。
 - (4) この地方は、第一次世界大戦後に国際連盟の管理下に置かれ、その後住民投票によりドイツに編入された。
 - (5) この地方は、ミュンヘン会談においてチェコスロヴァキアからドイツへの割譲が認められた。
- (お) この人物に関する以下の短文のうち、正しいものはどれか。
- (1) この人物は、軍人皇帝の一人とされる。
 - (2) この人物は、『自省録』を著した。
 - (3) この人物は、十二表法を制定した。
 - (4) この人物は、第 2 回三頭政治に参加した。
 - (5) この人物は、『ローマ法大全』を編纂させた。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

古代ギリシアの哲学者アリストテレスは「人間は A 的動物である」と述べたことで知られている。都市国家とも呼ばれる古代ギリシアの A と今日私たちが知る国家とは大きく異なるが、様々な共同体を形成しながらその生を営む人間にとって、政治的共同体が重要なものであることをアリストテレスの言葉は物語っている。

ただ、アリストテレスが生きたのはこうした都市国家を中心としたギリシア社会が大きく変容していく時代でもあった。マケドニアの王 B は前 338 年のカイロネイアの戦いでテーベとアテネを破り、ギリシアをほぼ支配下に置いた。その息子、アレクサンドロス大王^(a)は、ギリシア・エジプトからインダス川に至る大帝國を築いた。

今日国家といえば、地図上に明確に区切られた領域がイメージされる。画定された国境をもち、対内的には最高権力をもち、また対外的には独立性を有する主権国家は、15 世紀後半から 17 世紀半ばにかけて西ヨーロッパで歴史的に形成されたとされる。そうした国家のあり方が形成される契機の一つが、イタリア戦争⁽ⁱ⁾であったと考えられている。また、教皇や皇帝という普遍的な権威が宗教改革⁽ⁱ⁾によって弱体化したことも、主権国家の形成を後押しした。

この時期には王権が拡大し、それはしばしば絶対王政^(a)と呼ばれる。スペインではカルロス 1 世の長男である C の時代に王権は強大になった。1571 年の D の海戦でオスマン帝國を破りイスラームの勢力拡大を阻んだスペインは、同時にカトリックの盟主を自認し、領内のプロテスタントを弾圧した。この政策に反発したネーデルラントの北部地域⁽⁵⁾は後にオランダとして独立することになる。

国家の担い手としての国民もまた歴史的な産物である。国民という共同性の意識が可能であるためには、同一の国家に属している人々の均質性が何らかのかたちで実現されている必要がある。近代国家としてのフランスがこうした国民国家の典型とされるのは、1789 年から始まったフランス革命の過程^(x)で封建的特権の廃止が宣言され、身分による区別が撤廃されたことが一因となっている。こうした変革は、ラ＝ファイエットらによって起草され、国民議會によって採択された

『 E 』の理念に支えられている。ここには、自然法^(b)に基づいて、すべての人間の自由と権利における平等、国民主権、私有財産の不可侵などの思想が盛り込まれていた。

ただし、自然法に基づく理想の実現のみが国民国家を創出する原動力であるわけではない。「国民」と訳される nation が同時に「民族」とも訳されるように、文化的・言語的同一性の自覚をもった「国民」の形成も国民国家を産み出す力である。そしてこれは、外敵の存在を介した内的一体性の意識と連動する場合がある。

例えば、ドイツの場合がそうである。ナポレオン＝ボナパルト⁽ⁱⁱ⁾は、「革命の理念の輸出」という大義のもとヨーロッパの制圧を目指していく。皇帝に即位した翌年の1805年に行われた F の海戦でイギリスに敗れたものの、1806年にはイエナの戦いでプロイセンを破って、フランス軍はその首都ベルリンを占領する。この時占領下のベルリンで講演「ドイツ国民に告ぐ」を行い、国民意識の覚醒を訴えたのが哲学者 G であった。また、この時期グリム兄弟が『グリム童話』を編纂したのも、ドイツ人としての民族的意識^{かんよう}を涵養することを意図してのこととも考えられている。

問 1 文中の空欄 A ～ G にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。

問 2 文中の——線部(a)・(b)に関する以下の問に答えよ。解答は別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は、正しい漢字で書け。

- (a) これを正当化する立場は王権神授説と呼ばれるが、この説を信奉し、エリザベス女王の次に国王となった人物は誰か。
- (b) これに関連して、抵抗権を認める社会契約説を打ち出し、『統治二論』(『市民政府二論』)を著した人物は誰か。

問 3 文中の——線部(i)・(ii)に関する以下の文章の中の——線部(1)～(4)には明らかな誤りが一つ含まれている。誤っているものを選び、解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (i) 神聖ローマ帝国軍のイタリア侵入をきっかけとして始まった戦争で、△
⁽¹⁾プスブルク家とフランスのヴァロワ家がイタリアの支配をかけて争った。⁽²⁾
⁽³⁾カトー＝カンブレジ条約で戦争は集結した。
⁽⁴⁾
- (ii) イタリアやエジプトへの遠征で名声を高めたナポレオン＝ボナパルトは、1799年にいわゆるテルミドールの反動で統領政府の第一統領に就任して独裁的権力を行使することになる。1804年には皇帝に即位し、第一
⁽¹⁾帝政を開始する。また彼は、民法典を制定した。⁽²⁾
⁽³⁾
⁽⁴⁾

問 4 文中の〰〰線部(あ)～(え)に関する以下の問に答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (あ) この人物について説明した以下の短文 i ～ iii の正誤の組み合わせが正しいものはどれか。

- i イッソスの戦いでダレイオス 3 世を破った。
 ii 大王の死後、領土はディアドコイによって争われた。
 iii 大王の遠征からセレウコス朝シリアの滅亡までの約 300 年間はヘレニズム時代と呼ばれる。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) i—正 ii—正 iii—正 | (2) i—正 ii—正 iii—誤 |
| (3) i—正 ii—誤 iii—正 | (4) i—正 ii—誤 iii—誤 |
| (5) i—誤 ii—正 iii—正 | (6) i—誤 ii—正 iii—誤 |
| (7) i—誤 ii—誤 iii—正 | (8) i—誤 ii—誤 iii—誤 |

- (い) これについて説明した以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) ルターは「95 か条の論題」を発表し、贖宥状(免罪符)を批判した。
 (2) ルターは『新約聖書』をドイツ語に翻訳した。
 (3) ドイツ農民戦争に対してルターは最後まで農民を支持した。
 (4) アウクスブルクの宗教和議でルター派が公認された。
 (5) カルヴァンが予定説を唱えた。

(う) この地域もしくは国について説明した以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) オラニエ公ウィレムの指導のもと、スペインと戦った。
- (2) アンボyna事件でポルトガル勢力をインドネシアから駆逐した。
- (3) ジャワ島のバタヴィアを貿易の拠点とした。
- (4) 北米にニューアムステルダムを建設した。
- (5) 台湾の一部を支配していたが、鄭成功とその一族によって駆逐された。

(え) これに関する出来事 i ～ iii が、年代の古い順に正しく並んでいるものはどれか。

i 国民公会の成立

ii ルイ 16 世の処刑

iii 8 月 10 日事件

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| (1) i → ii → iii | (2) i → iii → ii | (3) ii → i → iii |
| (4) ii → iii → i | (5) iii → i → ii | (6) iii → ii → i |

〔Ⅲ〕 次の文章をよく読み、後記の問に答えよ。

中国では、古代より多様な文化や生活様式を持つ人々の間で対立や統合をくり返しながら歴史が展開した。紀元前 8 世紀に [A] が衰えて諸侯たちが覇権を争う春秋戦国時代に入ると、^{せい}齊の^{かんこう}桓公や^{しん}晋の^{ぶんこう}文公などは武力で他の諸侯を従えて勢力を拡大した。一方で、もともと [A] とは異なる文化を持っていた人々もこの時代の歴史を動かす。例えば、紀元前 8 世紀の終わり頃から南方の長江中流域を本拠地に使っていた [B] が北に向かって勢力を拡大する。前漢の武帝の時代に完成した『史記』は太古以来の歴史を総括した史書だが、^(い)それによれば [B] の王は「我は蛮夷なり」と称していたという。その後、紀元前 221 年に中国を統一したのは、時に西方の蛮族としてあつかわれることもあった秦^(イ)だった。秦は紀元前 4 世紀半ばに (a) を登用し富国强兵を目指す制度改革を断行した。やがて国力を増した秦は統一を達成し、中国に新たな制度を施行する。

中国ではその後も分裂と統合がくり返されたが、13 世紀になると中国を含むユーラシア東方はより巨大な統合を経験する。チンギス = ハンが建てたモンゴル帝国は、13 世紀後半までにユーラシア大陸の広大な地域を征服した。13 世紀のユーラシア東方では、女真人によって建国され、中国東北地方から勃興した金^(ウ)が華北をも支配下に置いていた。一方、中国の南方は南宋^(エ)の統治下にあったが、そこでは後世の中国思想・中国文化に多大な影響を遺した思想家・文人が輩出した。金と南宋は百年余り対峙し続けたが、全てモンゴル帝国に呑み込まれる。こうして、モンゴル高原から中国に至る地域まで空前の統合を達成したクビライ = ハーンは儒教經典の『易経』の一節を踏まえて自らの支配地域の国号を元と定めた。それ以前の国号は、王朝創始者が皇帝となる前に支配していた地域の名や、その肩書きに含まれる地名を用いたが、モンゴル人がその伝統を変えたのである。このモンゴル帝国の統治下^(ロ)にあって、ユーラシアの東西間で人・物の往来が活発化し特徴ある文化が生み出されていった。

とはいえ、元による中国統治は長く続かず、1368 年に現在の南京を拠点とした (b) が建てた明によって元はモンゴル高原へと駆逐される。明は史上初めて南方から中国の統一を達成した王朝となった。^(ハ)西に目を転じると、チャガタイ = ハン国が分裂した後、14 世紀半ばに [C] が台頭してきた。 [C]

はサマルカンドを都とし、中央アジアからイラン・イラク地域などに勢力を拡大する。そして、モンゴル帝国の再興を目指して明への遠征に旅立つが、1405 年その途中で病没する。明では(c)と呼ばれる皇位をめぐる内乱が終息して間もない頃だった。その内乱の勝者である永楽帝は、かつて元も都を置いた北京に都を遷すとともに、モンゴル高原への親征、ムスリムの宦官である D に率いさせた大艦隊のインド洋への派遣など、積極的な対外政策を推進した。明の命脈は 270 年以上に及ぶが、16 世紀以降は種々の内憂外患に悩まされ 1644 年に滅亡の時を迎える。

さて、中国東北地方に住んでいた女真人の間では明との貿易による利権をめぐって抗争が激化していたが、16 世紀末に女真を統一した E は軍事・行政一体の組織である(d)を編制し新興国家の建設を進めた。彼らは自らを満洲人と名乗るようになり、1636 年には国号を清と定めた。清は明滅亡後の中国に入ると、知識人に対して硬軟両様の姿勢で臨み支配を進める。また、支配を受け入れた証として漢人男性に満洲人の髪型である辮髪を強制した。しかし、辮髪はしだいに漢人社会に定着し、20 世紀前半に『阿 Q 正伝』などの小説を著し中国社会の病弊を批判した(e)の作品では、辮髪を切ることに抵抗感を覚えた人々の様子が描かれている。

問 1 文中の空欄(a)～(e)にあてはまる最も適切な語句を、下記の語群の中から選び、番号で別紙の解答欄に記入せよ。

〔語 群〕

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| (11) 安史の乱 | (12) 衛 所 | (13) 韓 非 |
| (14) 紅巾の乱 | (15) 康有為 | (16) 胡 適 |
| (17) 三藩の乱 | (18) 朱元璋 | (19) 朱全忠 |
| (20) 商 鞅 | (21) 靖康の変 | (22) 靖難の役 |
| (23) 蘇 秦 | (24) 趙 匡 胤 | (25) 張 騫 |
| (26) 陳独秀 | (27) 八 旗 | (28) 班 超 |
| (29) 府 兵 | (30) 里 甲 | (31) 李世民 |
| (32) 劉 邦 | (33) 梁啓超 | (34) 緑 營 |
| (35) 魯 迅 | | |

問 2 文中の空欄

A

 ～

E

 にあてはまる最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は、正しい漢字で書け。

問 3 文中の——線部(あ)～(お)に関する以下の問に答えよ。解答は最も適切な語句を考えて、別紙の解答欄に書き入れよ。ただし、通常、漢字で記される語句は正しい漢字で書け。

- (あ) このような有力諸侯を何というか。
- (い) この歴史書の叙述形式を何というか。
- (う) この国の統治下で創始され、儒教・仏教・道教の調和を説いた新しい道教の一派を何というか。
- (え) この国に生き、宋代におこった新しい儒学の潮流を集大成して、のちに長く儒学の正統とされた学問を確立した人物は誰か。
- (お) 元代におけるこの都市の呼称は何か。

問 4 文中の〰線部(イ)～(ホ)に関する以下の問いに答えよ。解答は番号で別紙の解答欄に記入せよ。

- (イ) この国の制度や政策に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) 君主の称号としてはじめて皇帝を用いた。
 - (2) 全国を県と郡という単位に分けて官僚を中央から派遣した。
 - (3) 儒学を国家の学問とした。
 - (4) 文字や度量衡を統一した。
 - (5) 焚書を行った。
- (ロ) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。
 - (1) イスラーム天文学の影響を受容した郭守敬によって授時暦が作られた。
 - (2) 白地に青色の文様を描く青花(染付)と呼ばれる陶磁器が生産された。
 - (3) マルコ＝ポーロが著したとされる『世界の記述』(『東方見聞録』)でモンゴル統治下の中国について詳述された。
 - (4) マテオ＝リッチが中国でキリスト教の布教に努めた。
 - (5) 色目人と呼ばれる西アジア・中央アジアなどの出身者が重用された。

(ハ) これに関連して、長江下流域の歴史に関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 春秋時代に呉が勃興した地域に当たる。
- (2) 後漢末期の群雄の一人だった劉備が蜀を建国した。
- (3) 南朝と総称される一連の王朝が都を置いた地である。
- (4) 隋はこの地域と首都圏を大運河によって結び付けた。
- (5) 19世紀半ばに太平天国が都を置いた地である。

(ニ) これに関する以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 明は、オイラトのエセンによって皇帝を捕虜にされた。
- (2) 明は、東南の沿海地域で激化した密貿易や海賊行為に悩まされた。
- (3) 明は、長城を超えて南下したモンゴルのアルタン到北京を包囲された。
- (4) 明は、豊臣秀吉が朝鮮に出兵したため朝鮮へ援軍を送った。
- (5) 明は、李自成などに率いられた反乱軍によって倒された。

(ホ) これに関連して、清代の政策や文化について述べた以下の短文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 清は、『四庫全書』など大規模な編纂事業をおこし、学者を優遇する姿勢を示した。
- (2) 清は、文字の獄・禁書と呼ばれる反抗的な言論を記した書物の摘発や、その筆者の処罰を行った。
- (3) 清代では、儒教の経典や史書について精密な研究を行うことを目指した考証学が発達した。
- (4) 清代では、上流階級の日常生活を描写した長編小説『紅樓夢』が生み出された。
- (5) 清代では、各種技術への関心が高まり、動植物などの薬効を研究した『本草綱目』が著された。